

第5章

地域の住みやすさや居住歴 と幸福実感

これまでの調査結果から、地域や社会のつながりと県民の幸福実感には密接な関連があることが明らかになってきたところです。この章では、「地域の住みやすさ」、今回調査で新たに設けた「親の世帯から離れて暮らした経験」や「引越の理由」などの現在お住まいの地域や居住歴に関する分析を記載しています。

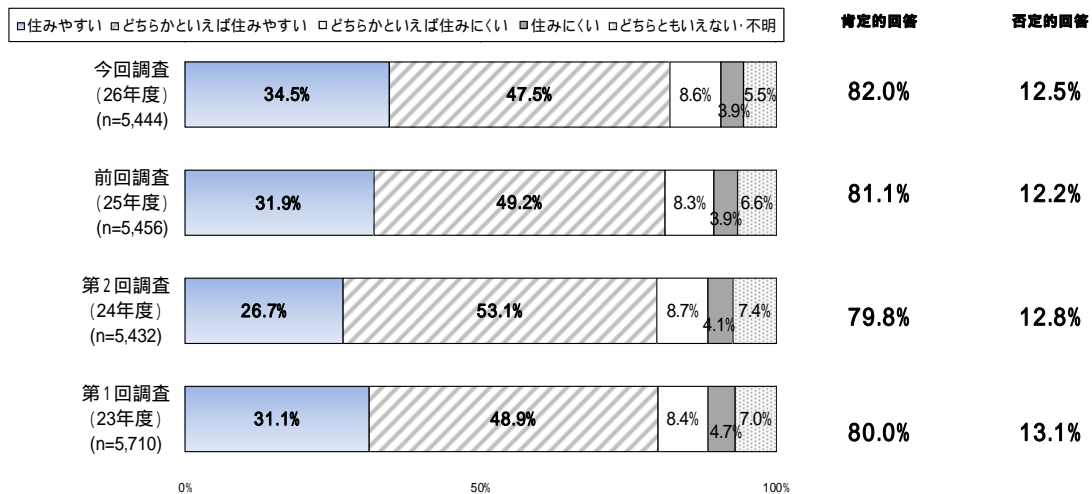
第1節 地域の住みやすさと地域活動の状況

1 地域の住みやすさ（全体の状況）

お住まいの地域が住みやすいかについて質問したところ、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計した「肯定的回答」の割合が82.0%で、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計した「否定的回答」の割合（12.5%）より69.5ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると「肯定的回答」の割合が0.9ポイント、「否定的回答」が0.3ポイントそれぞれ高くなっています。第1回調査と比較すると「肯定的回答」の割合が2.0ポイント高く、「否定的回答」が0.6ポイント低くなっています（図表 5-1-1）。

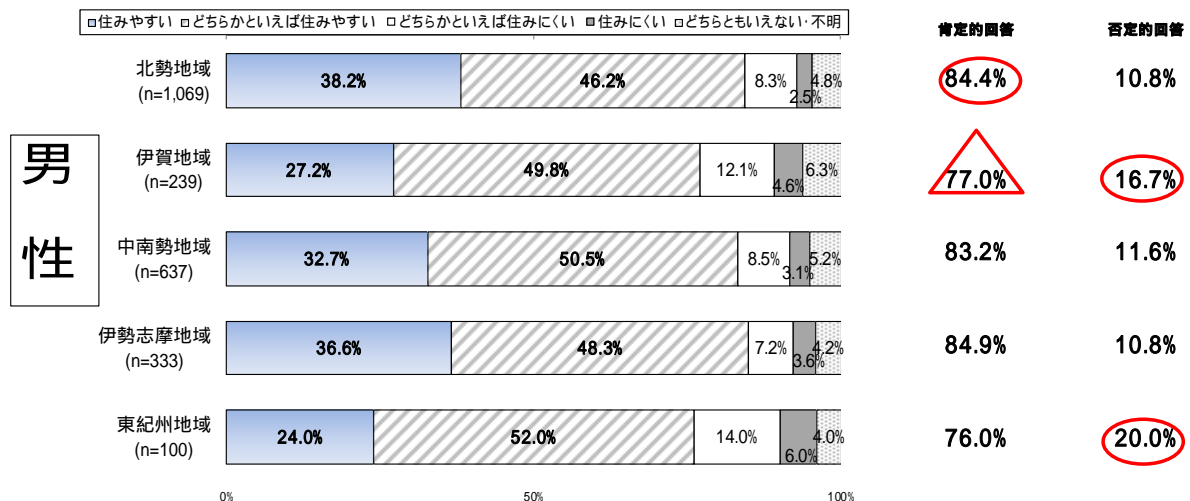
図表 5-1-1 地域の住みやすさ（第1回調査からの推移）



2 地域の住みやすさ（男女別・地域別の状況）

男女別・地域別に見ると、男性では北勢地域の「肯定的回答」の割合（84.4%）が県全体と比べ高く、伊賀地域（77.0%）が県全体と比べ低くなっています（図表 5-1-2）。

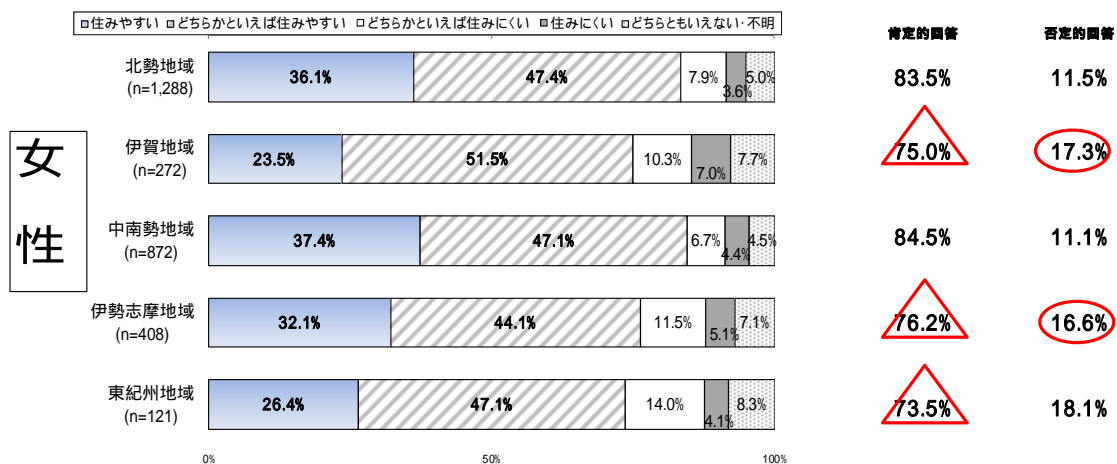
図表 5-1-2 地域の住みやすさ（地域別・男性）



女性では「肯定的回答」の割合が、伊賀地域(75.0%)、伊勢志摩地域(76.2%)、東紀州地域(73.5%)でそれぞれ県全体と比べ低くなっています(図表 5-1-3)

自由記述では、「北部と南部で、教育、福祉、医療などでレベルの差を感じる」、「東紀州は北勢地域などと比べ経済が落ち込んでいる」などの意見がありました。

図表 5-1-3 地域の住みやすさ(地域別・女性)



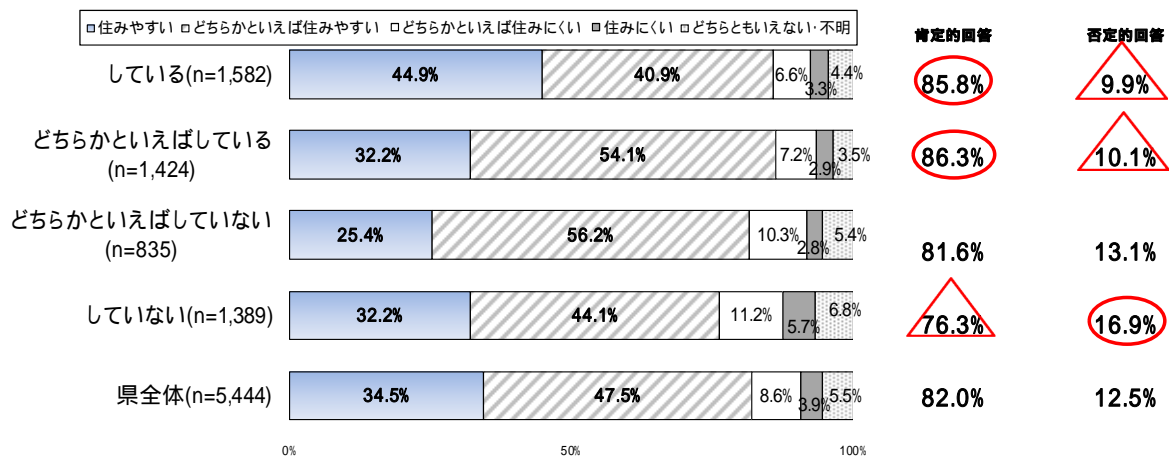
3 地域の住みやすさ(居住歴等との関係)

(1) 近所付き合いや地域での活動状況との関係

地域の住みやすさと近所付き合いや地域での活動状況との関係を見ると、近所付き合いや地域での活動を「している」と回答した層の「肯定的回答」(85.8%)と「どちらかといえばしている」と回答した層の「肯定的回答」(86.3%)がそれぞれ県全体と比べ高く、「していない」と回答した層の「肯定的回答」の割合(76.3%)が県全体と比べ低くなっています(図表 5-1-4)

自由記述では、「地域のつながりがなくなっていくことが『幸福感』の貧困へとつながっていく」、「一人暮らしのお年寄り世帯も多いが、見守りや地域の関わりがほとんどない」などの意見がありました。

図表 5-1-4 地域の住みやすさ(ご近所付き合いや地域での活動の状況別)

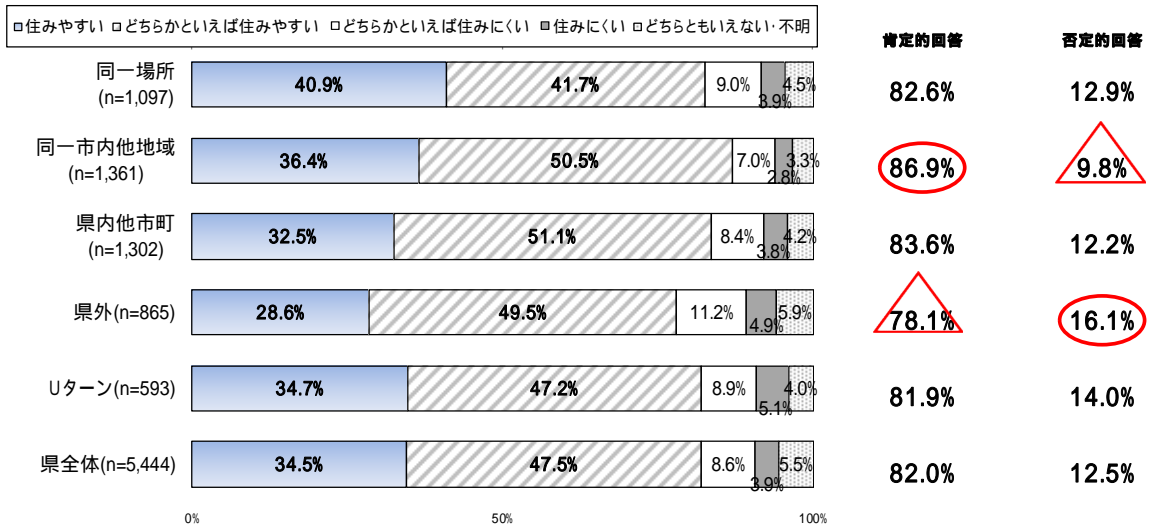


(2) 引越前の居住地との関係

現住地に引っ越す前の居住地との関係を見ると、「同一市内の他地域から」の「肯定的回答」(86.9%)が県全体と比べ高く、「県外から初めて三重県に引っ越し」の「肯定的回答」(78.1%)が県全体と比べ低くなっています(図表 5-1-5)

自由記述では、「2年前に引っ越してきたが、近所付き合いもなく、他の県に比べて子育てなどの情報が少ない」、「夫の転勤で三重に引っ越してきた。大阪や名古屋といった大都市にも近いが自然豊かで、大変住みやすい」などの意見がありました。

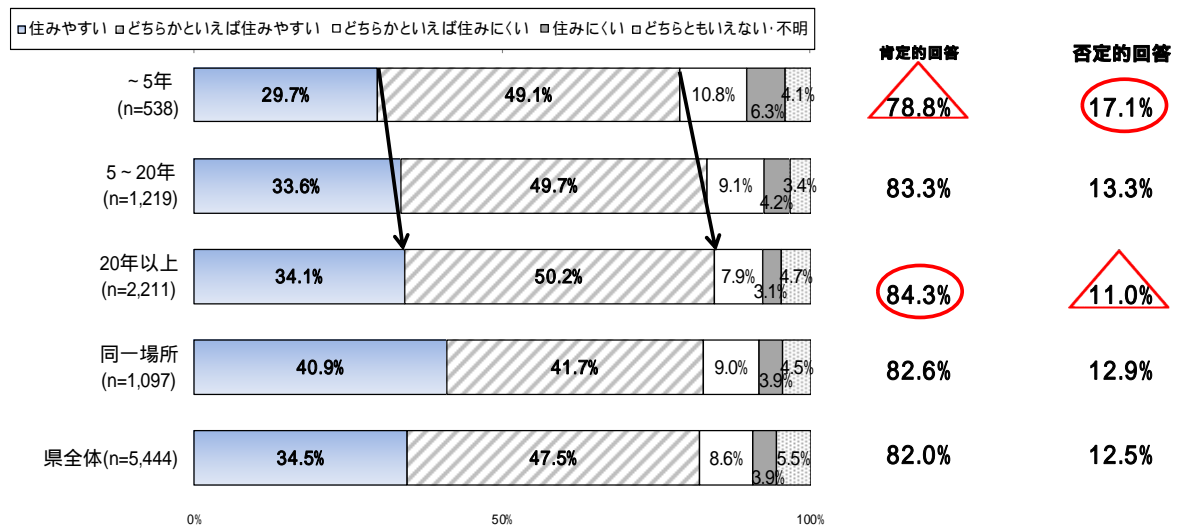
図表 5-1-5 地域の住みやすさ(引越前の居住地別)



(3) 引越後の居住年数との関係

現住地に引っ越した後の居住年数との関係を見ると、「20年以上」の「肯定的回答」(84.3%)が県全体と比べ高く、「~5年」の「肯定的回答」(78.8%)が県全体と比べ低くなっています(図表 5-1-6)

図表 5-1-6 地域の住みやすさ(引越後の居住年数別)

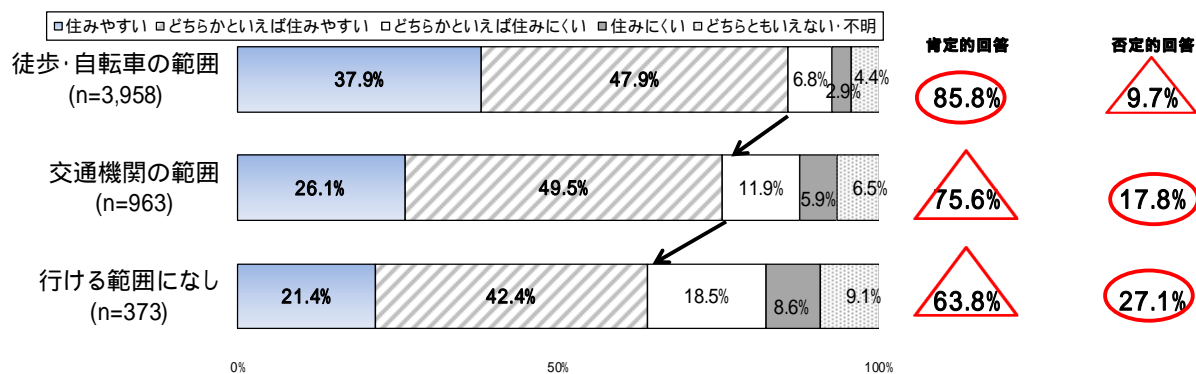


4 地域の住みやすさ（近隣の施設等へのアクセスとの関係）

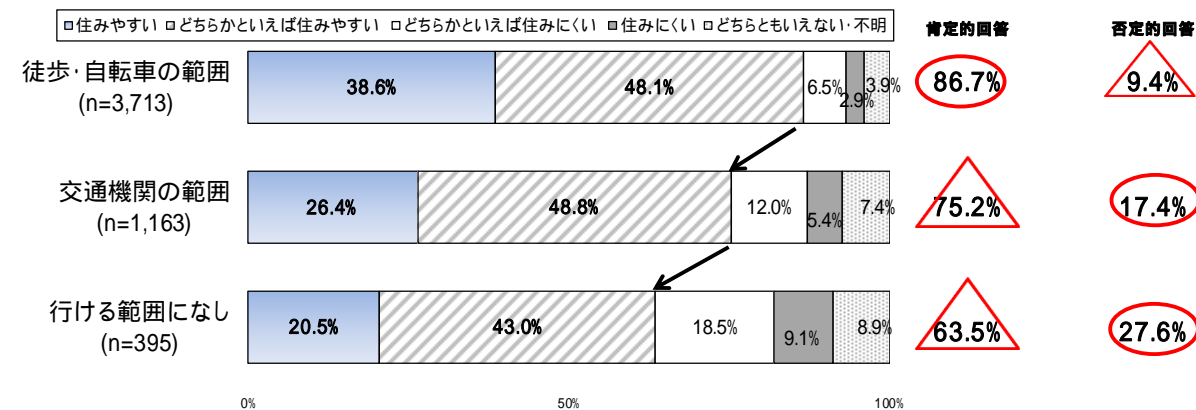
地域の住みやすさと近隣の施設等へのアクセスとの関係を見ると、全ての近隣の施設等で「徒歩・自転車の範囲」で利用できると回答した層の「肯定的回答」の割合が県全体と比べ高く、全ての近隣の施設等で「行ける範囲になし」と回答した層の「肯定的回答」の割合が県全体と比べ低くなっています（図表 5-1-7～図表 5-1-16）。

自由記述では「交通の便がよくなり、不便を感じる。小売店やスーパーが近くにあってほしい」、「現在は車での移動で不便は感じないが、車を運転できなくなった時が不安。バスも1時間に1本あれば良い方で、駅も遠い」などの意見がありました。

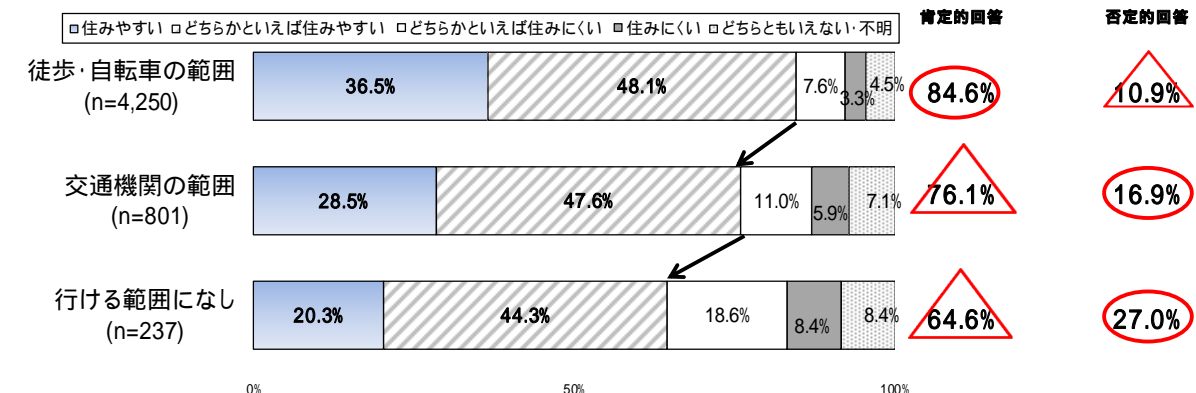
図表 5-1-7 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(食料品が買える所)



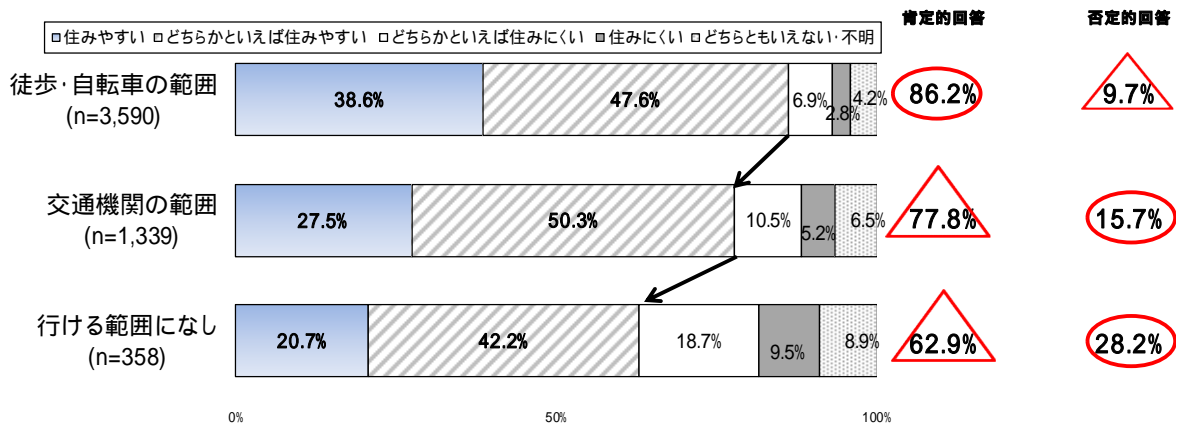
図表 5-1-8 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(日用雑貨が買える所)



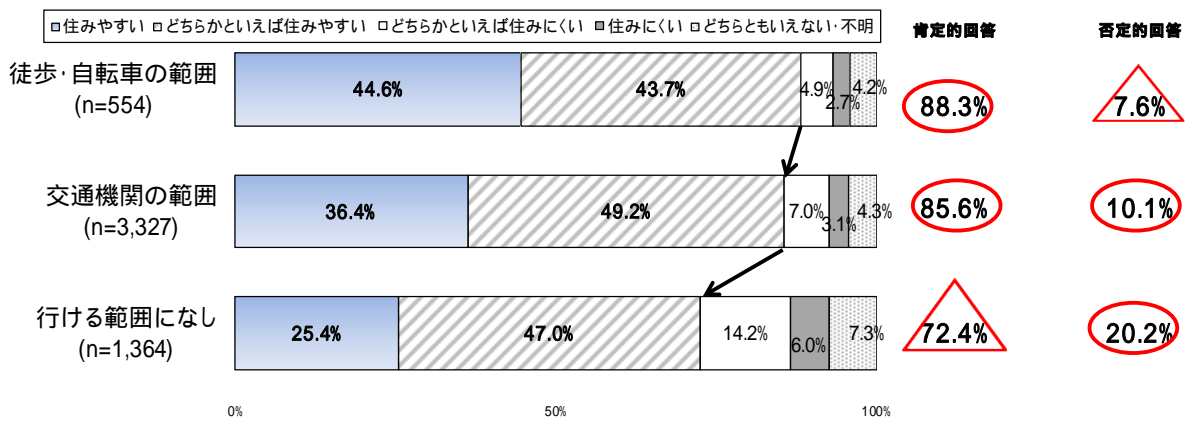
図表 5-1-9 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(郵便局)



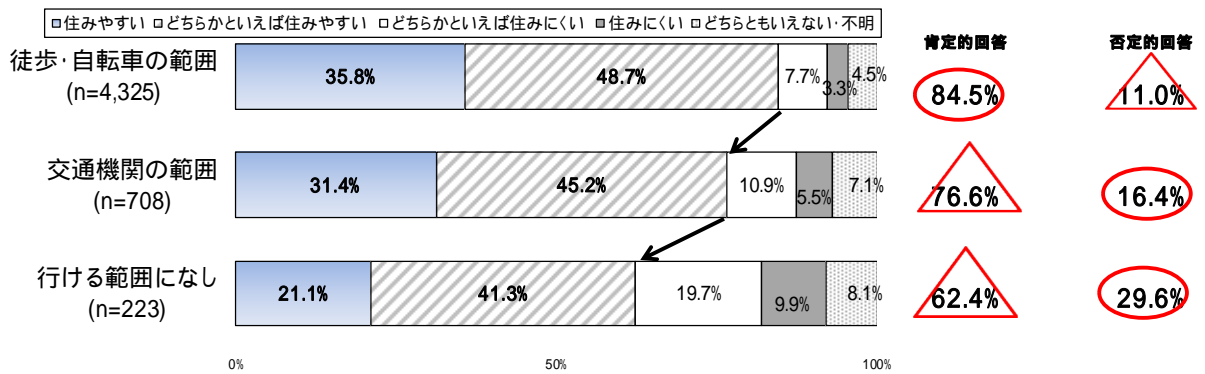
図表 5-1-10 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(銀行、信用金庫等の金融機関)



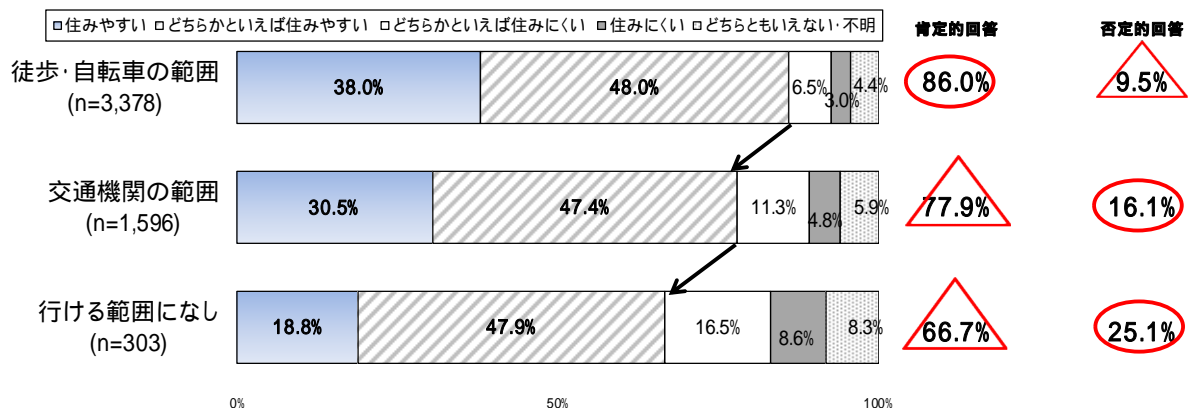
図表 5-1-11 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(映画館、劇場、美術館等の文化施設)



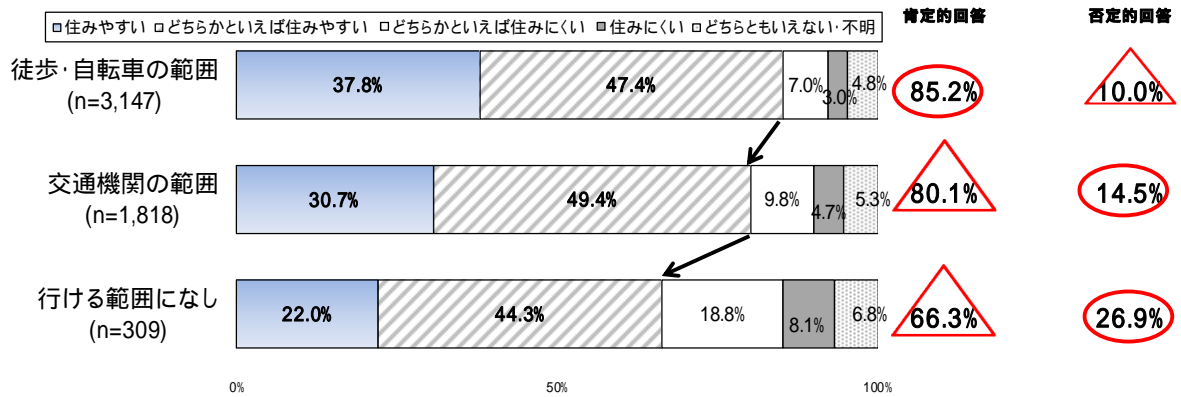
図表 5-1-12 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(公共交通機関(バス停、鉄道駅等))



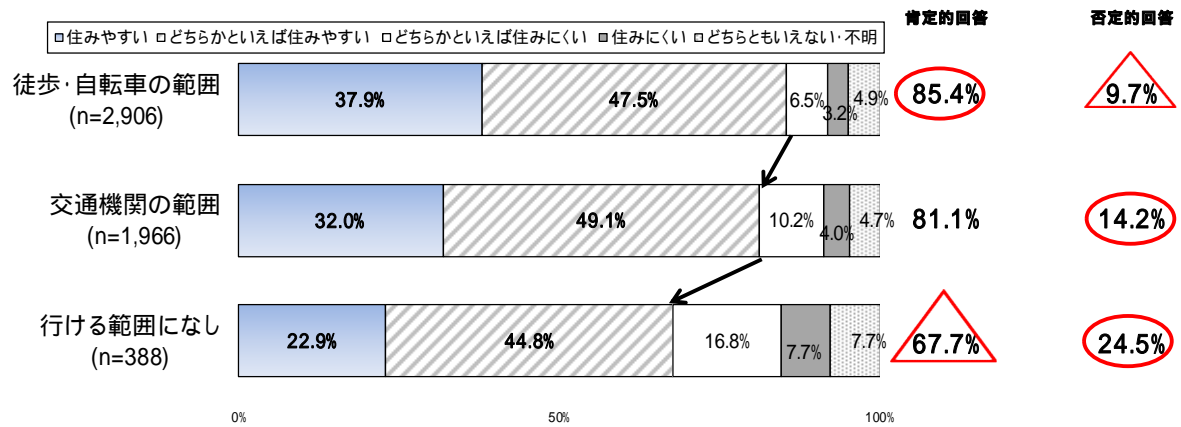
図表 5-1-13 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(診療所や病院)



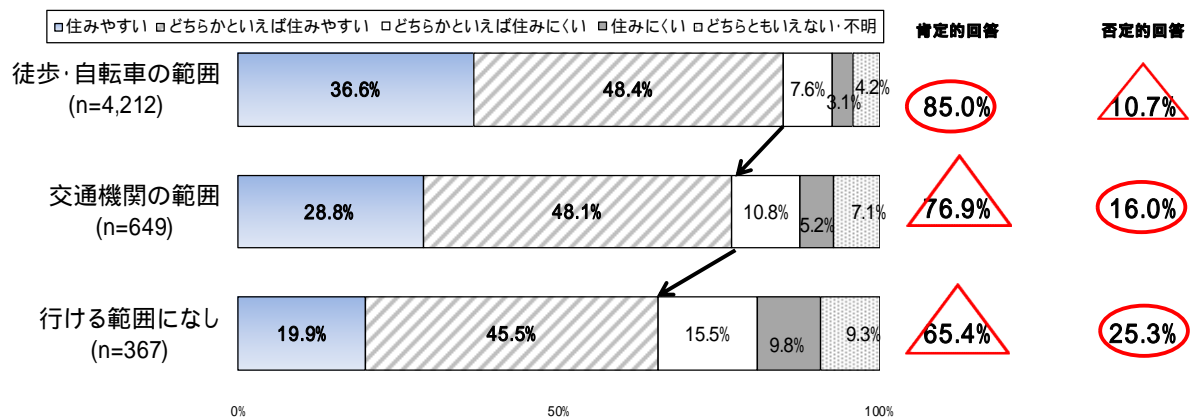
図表 5-1-14 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(役場 支所等の自治体窓口)



図表 5-1-15 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(図書館 公民館等の集会施設)



図表 5-1-16 近隣の施設へのアクセス別の地域の住みやすさ(子どもなどが遊べる場(公園等))

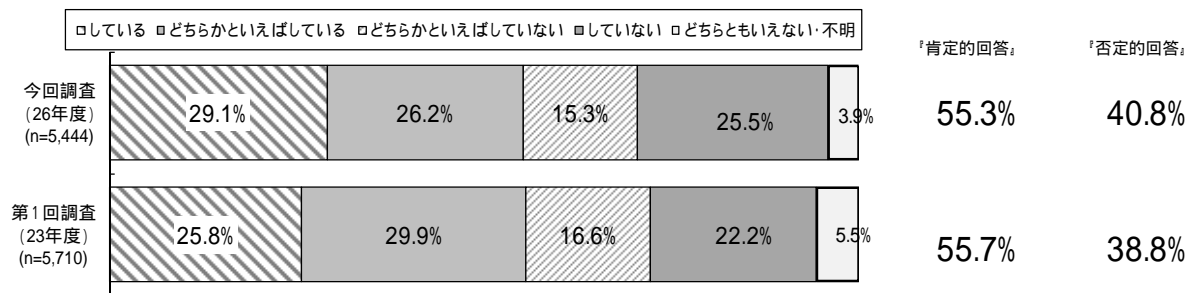


5 近所付き合いや地域での活動状況（全体の状況）

近所付き合いや地域での活動の状況を質問したところ、「している」と「どちらかといえばしている」を合計した『肯定的回答』の割合が55.3%で、「していない」と「どちらかといえばしていない」を合計した『否定的回答』の割合（40.8%）より14.5ポイント高くなっています。

第1回調査と比較すると『肯定的回答』の割合が0.4ポイント低く、『否定的回答』の割合は2.0ポイント高くなっています（図表 5-1-17）

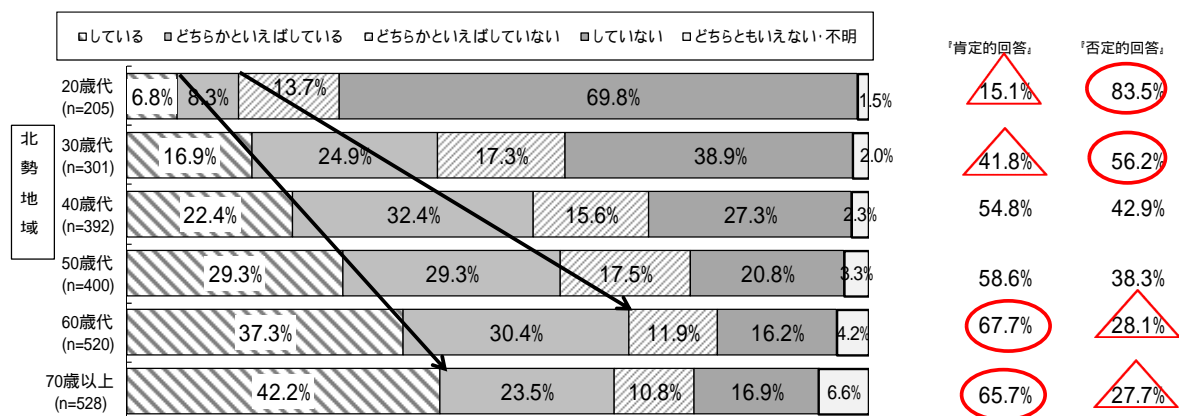
図表 5-1-17 近所付き合いや地域での活動状況(今回調査及び第1回調査の結果)



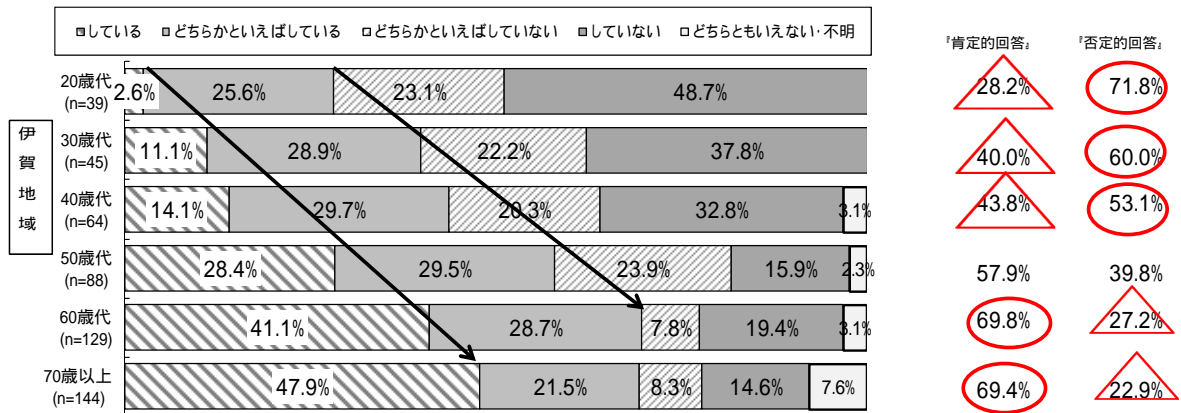
6 近所付き合いや地域での活動状況（地域別・年代別の状況）

地域別・年代別に見ると、年齢層が上がるに従い、「肯定的回答」の割合が高くなる傾向にあり、70歳以上は全ての地域で県全体と比べ高く、反対に20歳代及び30歳代はサンプル数の少ない東紀州地域を除き、県全体と比べ低くなっています（図表 5-1-18～図表 5-1-22）

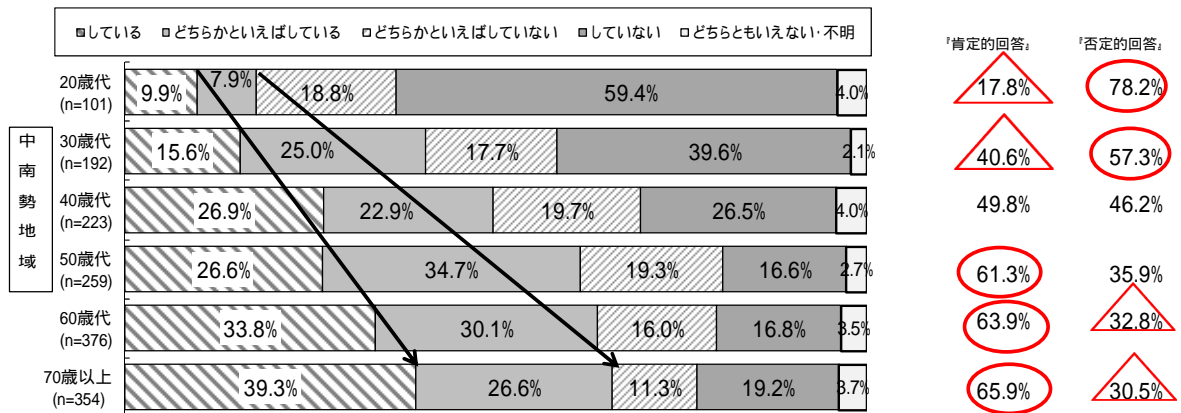
図表 5-1-18 近所付き合いや地域での活動状況(北勢地域・年代別)



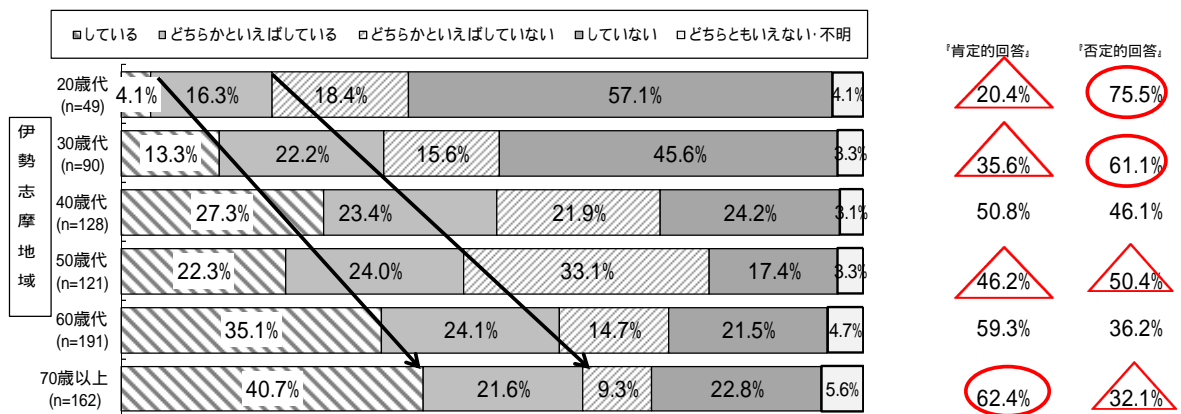
図表 5-1-19 近所付き合いや地域での活動状況(伊賀地域・年代別)



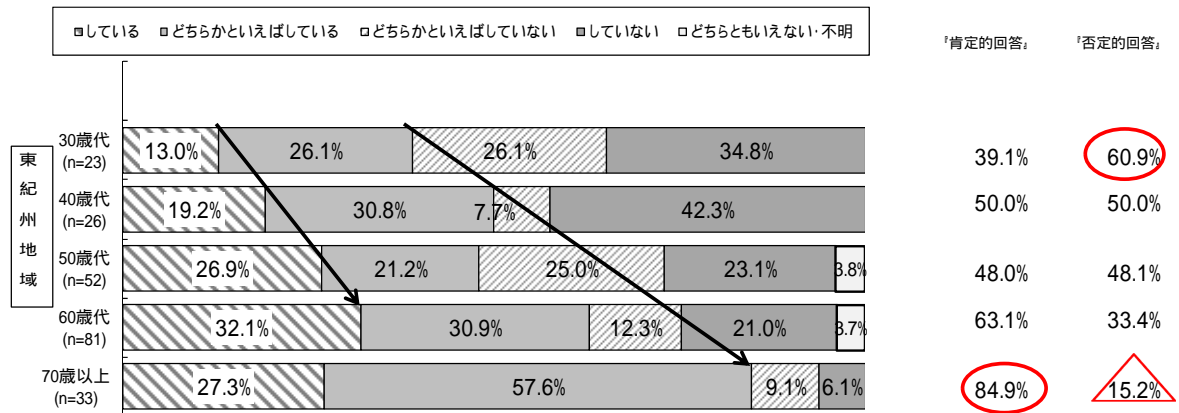
図表 5-1-20 近所付き合いや地域での活動状況(中南海地域・年代別)



図表 5-1-21 近所付き合いや地域での活動状況(伊勢志摩地域・年代別)



図表 5-1-22 近所付き合いや地域での活動状況(東紀州地域・年代別)



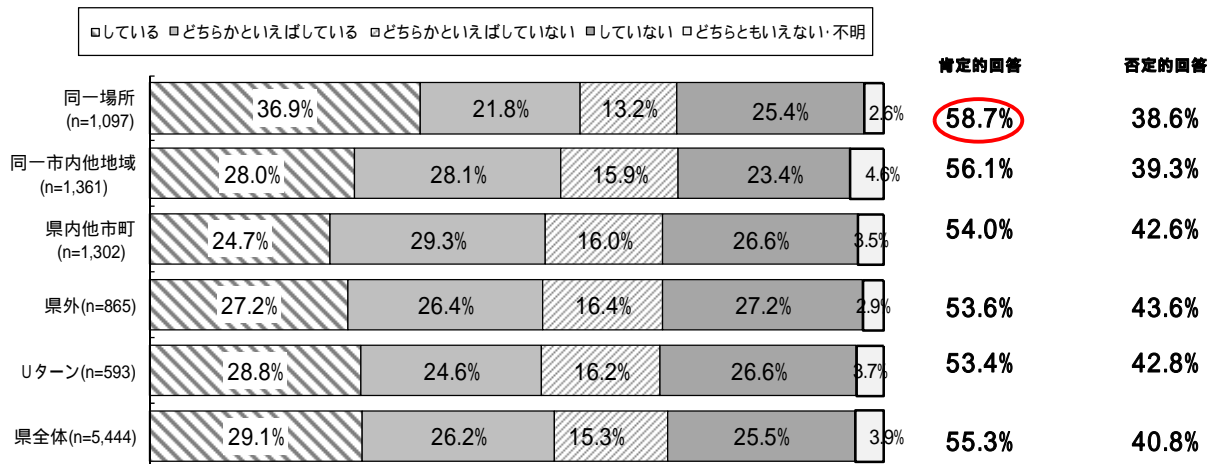
(備考) 20歳代 (n=7) については、サンプル数が少ないため、省略している。

7 近所付き合いや地域での活動状況 (居住歴等との関係)

(1) 引越前の居住地との関係

現住地に引っ越す前の居住地との関係を見ると、「同一場所」の「肯定的回答」(58.7%)が県全体と比べ最も高くなっています(図表 5-1-23)。

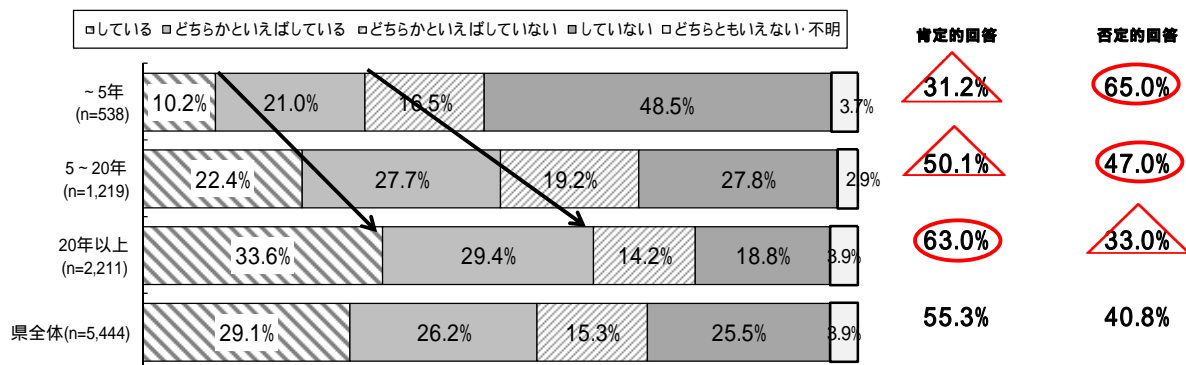
図表 5-1-23 近所付き合いや地域での活動状況(引越前の居住地別)



(2) 引越後の居住年数との関係

現住地に引越した後の居住年数との関係を見ると、居住年数が長くなるに従い、「肯定的回答」の割合は高くなる傾向にあり、「20年以上」(63.0%)が県全体に比べ高く、「~5年」(31.2%)「5~20年」(50.1%)が県全体に比べ低くなっています(図表 5-1-24)

図表 5-1-24 近所付き合いや地域での活動状況(引越後の居住年数別)

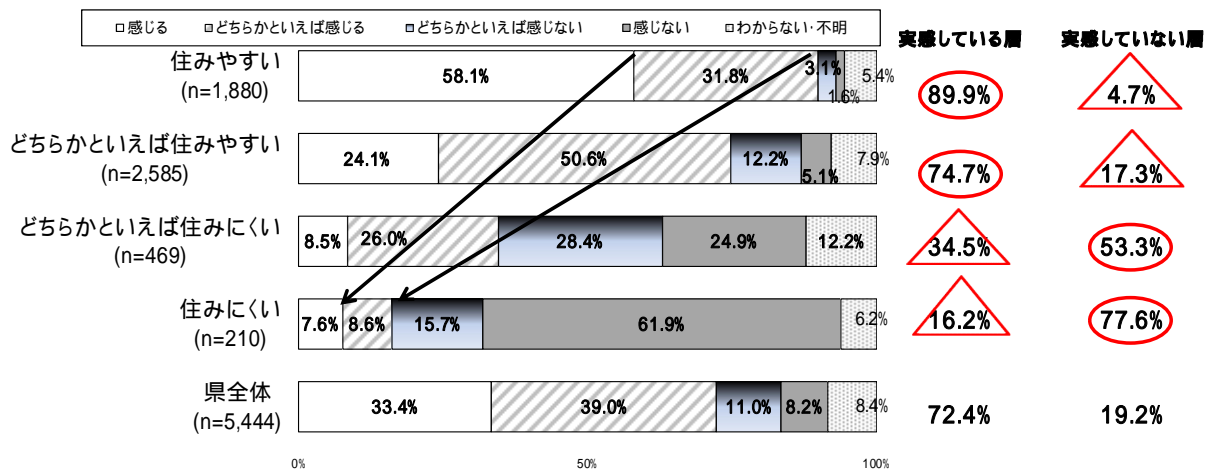


8 幸福実感指標等との関係

(1) 地域の住みやすさと幸福実感指標との関係

地域の住みやすさと関連があると考えられる幸福実感指標である「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」との関係を見ると、住みやすさを感じる度合いが強いほど「実感している層」の割合が高い傾向にあり、「実感している層」について「住みやすい」(89.9%)「どちらかといえば住みやすい」(74.7%)がそれぞれ県全体に比べ高く、「どちらかといえば住みにくい」(34.5%)「住みにくい」(16.2%)がそれぞれ県全体に比べ低くなっています(図表 5-1-25)

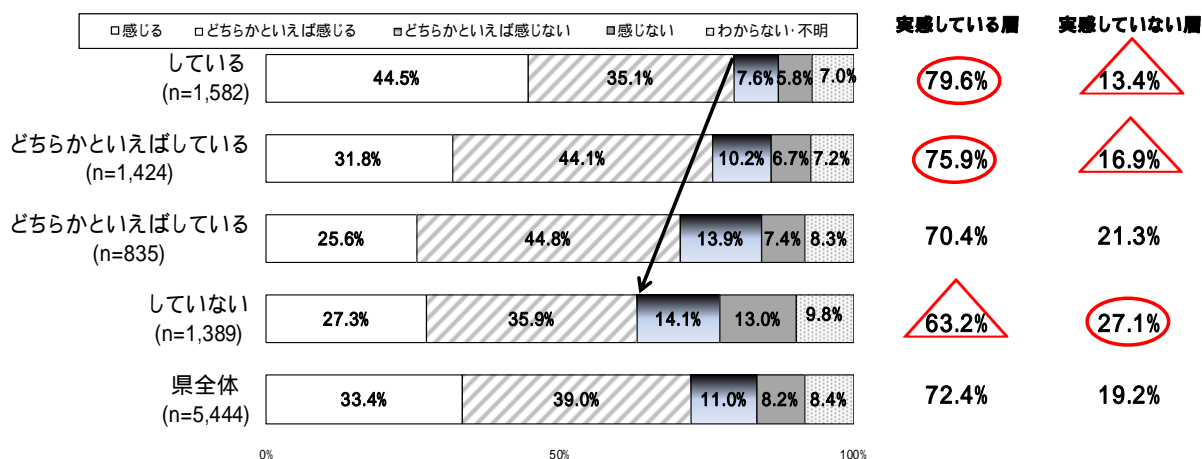
図表 5-1-25 地域の住みやすさと幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」との関係



(2) 近所付き合いや地域での活動状況と幸福実感指標との関係

近所付き合いや地域での活動状況との関係を見ると、「実感している層」について「している」(79.6%)、「どちらかといえばしている」(75.9%)がそれぞれ県全体に比べ高く、「していない」(63.2%)が県全体に比べ低くなっています(図表 5-1-26)

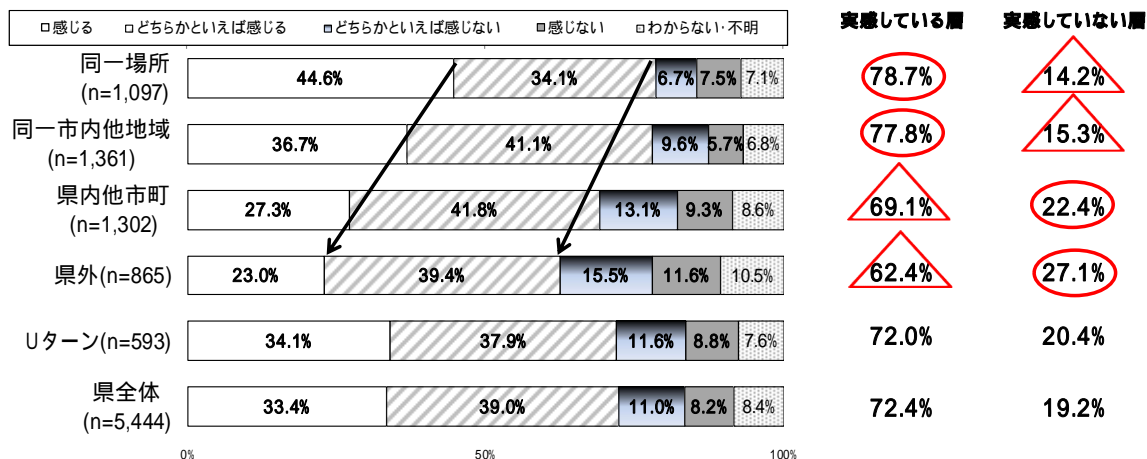
図表 5-1-26 近所付き合いや地域での活動状況と幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」との関係



(3) 引越前の居住地と幸福実感指標との関係

引越前の居住地との関係を見ると、「実感している層」について「同一場所」(78.7%)、「同一市内他地域から」(77.8%)がそれぞれ県全体に比べ高く、「県内他市町から」(69.1%)、「県外から初めて三重県に引っ越し」(62.4%)がそれぞれ県全体に比べ低くなっています(図表 5-1-27)

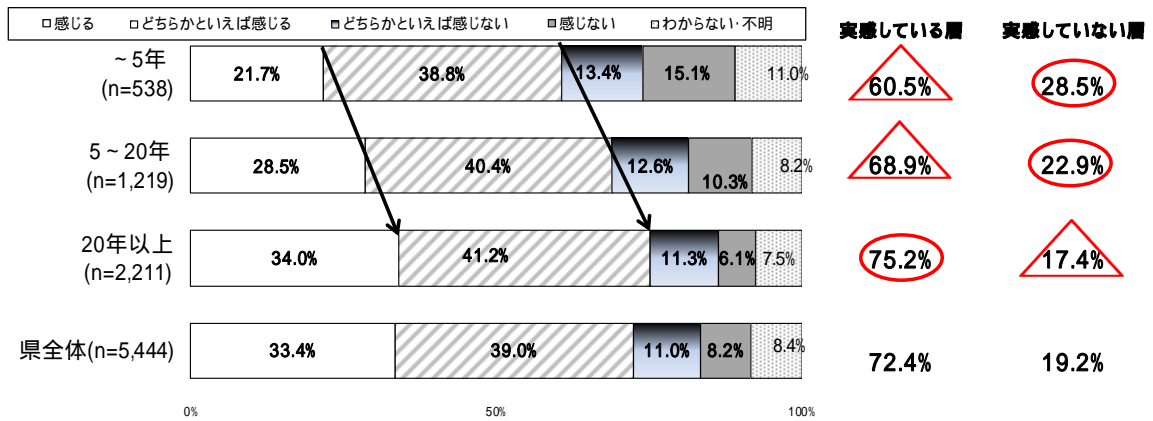
図表 5-1-27 引越前の居住地と幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」との関係



(4) 引越後の居住年数と幸福実感指標との関係

現住地に引っ越した後の居住年数との関係を見ると、居住年数が長くなるに従い、「実感している層」の割合は高くなる傾向にあり、「20年以上」(63.0%)が県全体に比べ高く、「～5年」(60.5%)、「5～20年」(68.9%)が県全体に比べ低くなっています(図表 5-1-28)

図表 5-1-28 引越後の居住年数と幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」との関係

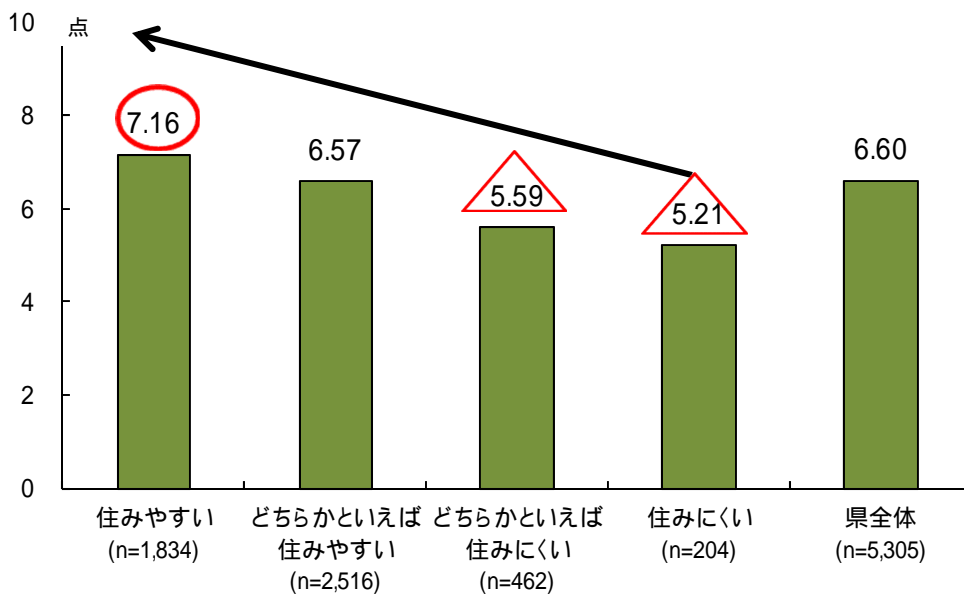


9 幸福実感との関係

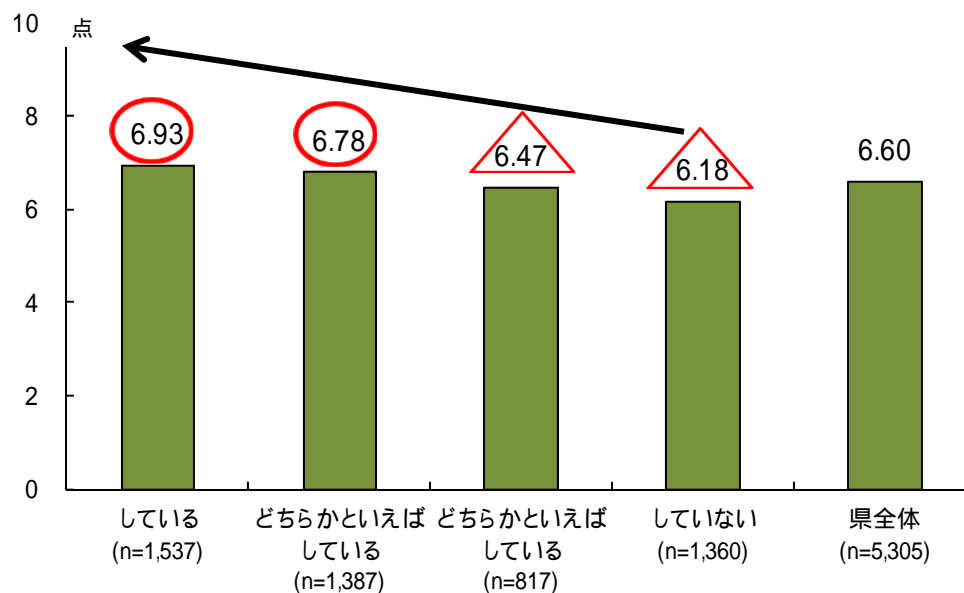
地域の住みやすさの回答別に幸福感を比較したところ、「住みやすい」(7.16点)が県全体に比べ高く、「どちらかといえば住みにくい」(5.59点)「住みにくい」(5.21点)がそれぞれ県全体に比べ低くなっています(図表 5-1-29)

近所付き合いや地域での活動状況の回答別に幸福感を比較したところ、「している」(6.93点)「どちらかといえばしている」(6.78点)がそれぞれ県全体に比べ高く、「どちらかといえばしていない」(6.47点)「していない」(6.18点)がそれぞれ県全体に比べ低くなっています(図表 5-1-30)

図表 5-1-29 幸福感の平均値(地域の住みやすさの回答別)



図表 5-1-30 幸福感の平均値(近所付き合いや地域での活動状況の回答別)

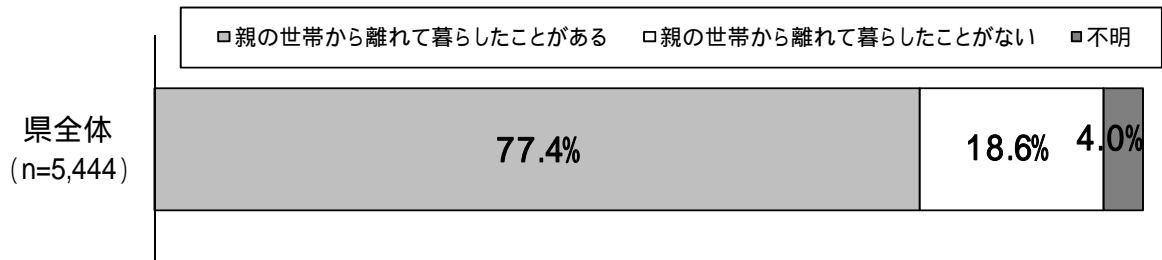


第2節 居住歴による意識の相違

1 親の世帯から離れて暮らした経験と直後の居住地（全体の状況）

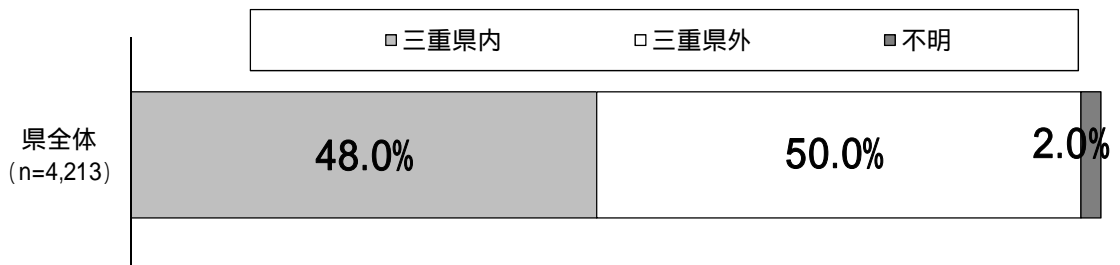
親の世帯から離れて暮らした経験を質問したところ、「親の世帯から離れて暮らしたことがある」の割合が77.4%で、「親の世帯から離れて暮らしたことがない」（18.6%）より58.8ポイント高くなっています（図表 5-2-1）。

図表 5-2-1 親の世帯から離れて暮らした経験



「親の世帯から離れて暮らしたことがある」と回答した方に、親の世帯から初めて離れた直後の居住地が三重県内か三重県外かを質問したところ、「三重県外」の割合が50.0%で、「三重県内」（48.0%）を2.0ポイント上回っています（図表 5-2-2）。

図表 5-2-2 親の世帯から離れた直後の居住地



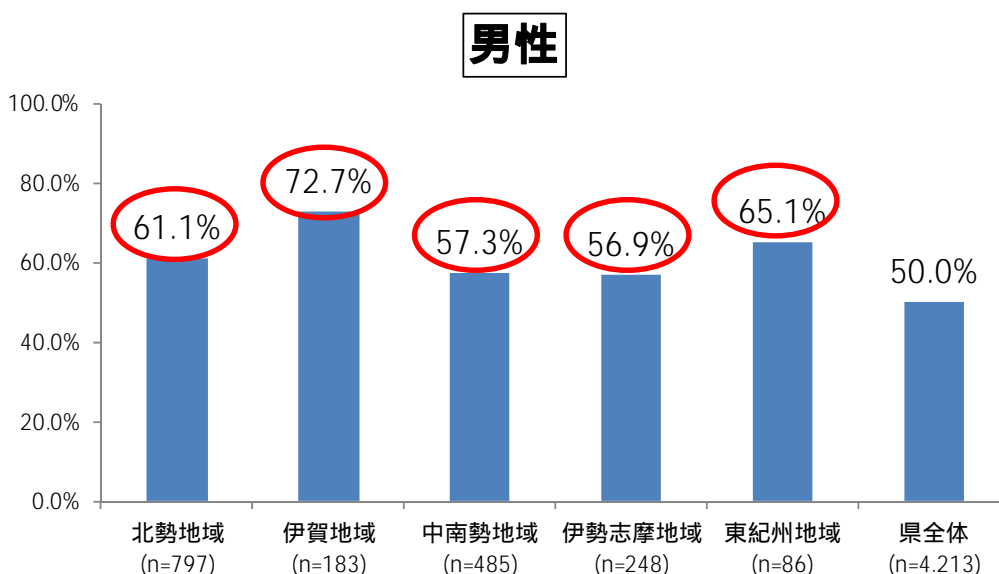
2 親の世帯から離れた直後の居住地

(1)「県外」の地域別・男女別の状況

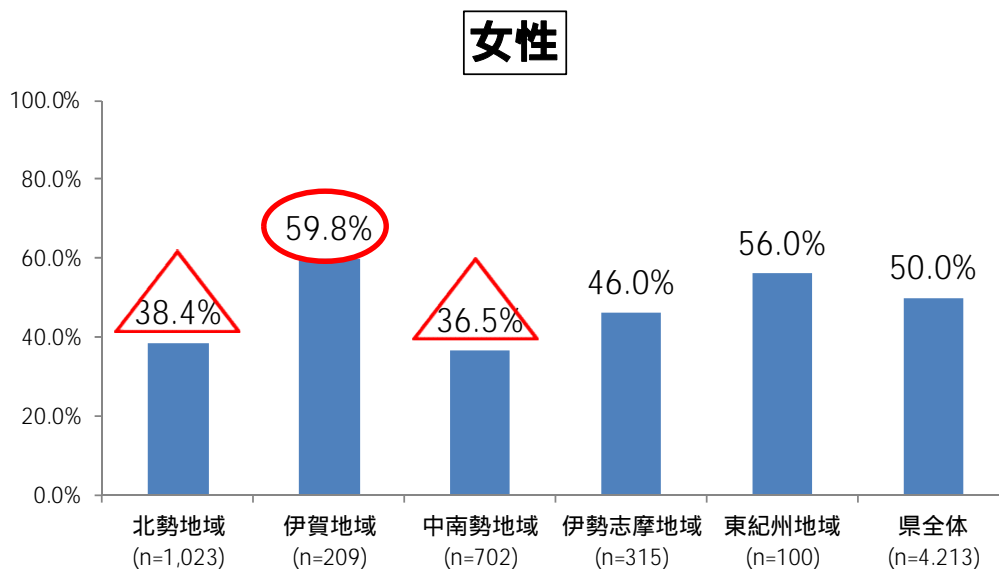
地域別・男女別に、親の世帯から初めて離れた直後の居住地が「県外」と回答した割合を見ると、男性では伊賀地域の72.7%が最も高く、次いで東紀州地域(65.1%)、北勢地域(61.1%)の順に高く、伊勢志摩地域の56.9%が最も低くなっています。また、いずれの地域も県全体に比べ高くなっています(図表 5-2-3)

女性でも伊賀地域の59.8%が最も高く、次いで東紀州地域(56.0%)、伊勢志摩地域(46.0%)の順に高く、中南勢地域の36.5%が最も低くなっています。県全体に比べ、伊賀地域で高く、中南勢地域及び北勢地域で低くなっています(図表 5-2-4)

図表 5-2-3 親の世帯から離れた直後の居住地「県外」(地域別・男性)



図表 5-2-4 親の世帯から離れた直後の居住地「県外」(地域別・女性)

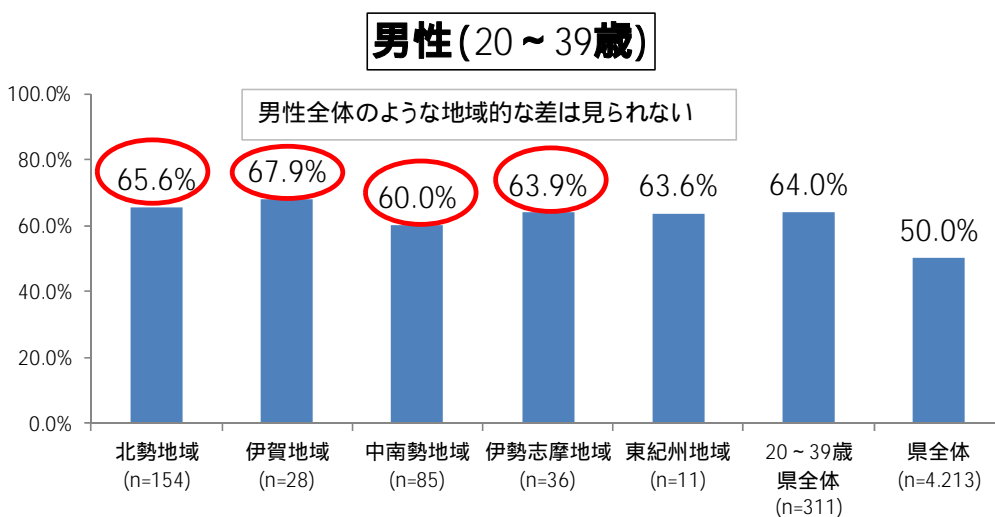


(2)「県外」の地域別・男女別・年齢別の状況

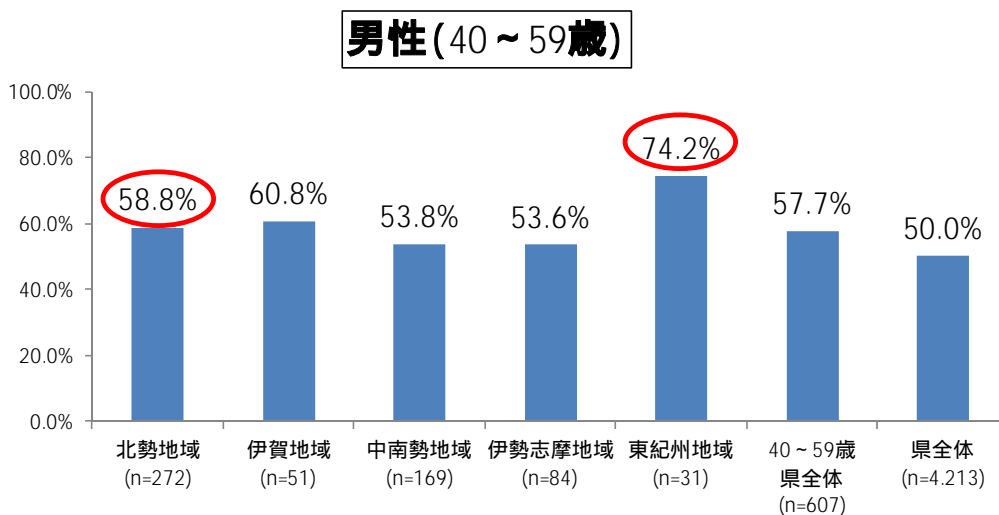
地域別・男女別に年齢別を加えて「県外」と回答した割合を見ると、20～39歳の男性では、年齢全体と同様に伊賀地域の67.9%が最も高くなっていますが、男性全体のような地域的な差はあまり見られません。また、東紀州地域を除き、いずれの地域も県全体に比べ高くなっています(図表 5-2-5)。

40～59歳の男性では、年齢全体では二番目に高かった東紀州地域の74.2%が最も高くなっています。県全体に比べ、東紀州地域と北勢地域で高くなっています(図表 5-2-6)。

図表 5-2-5 親の世帯から離れた直後の居住地「県外」(地域別・男性・20～39歳)



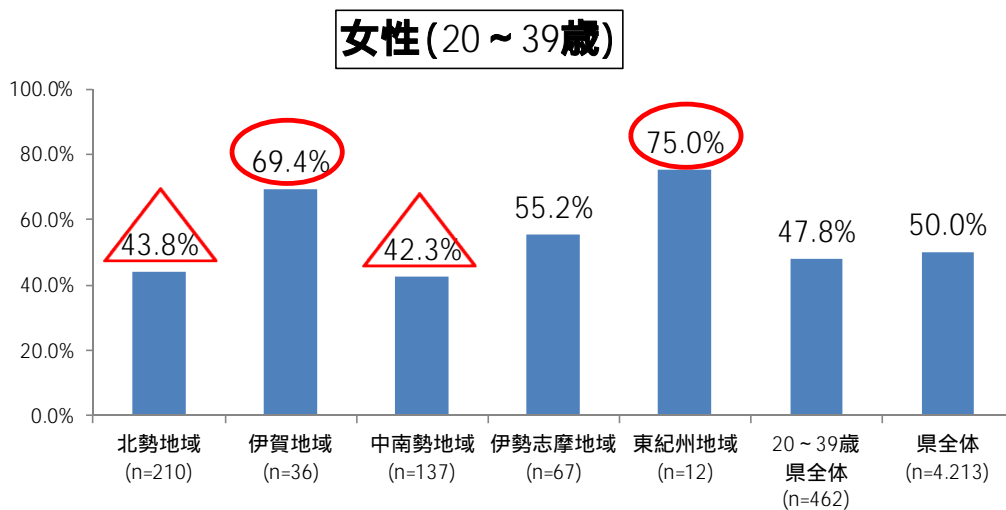
図表 5-2-6 親の世帯から離れた直後の居住地「県外」(地域別・男性・40～59歳)



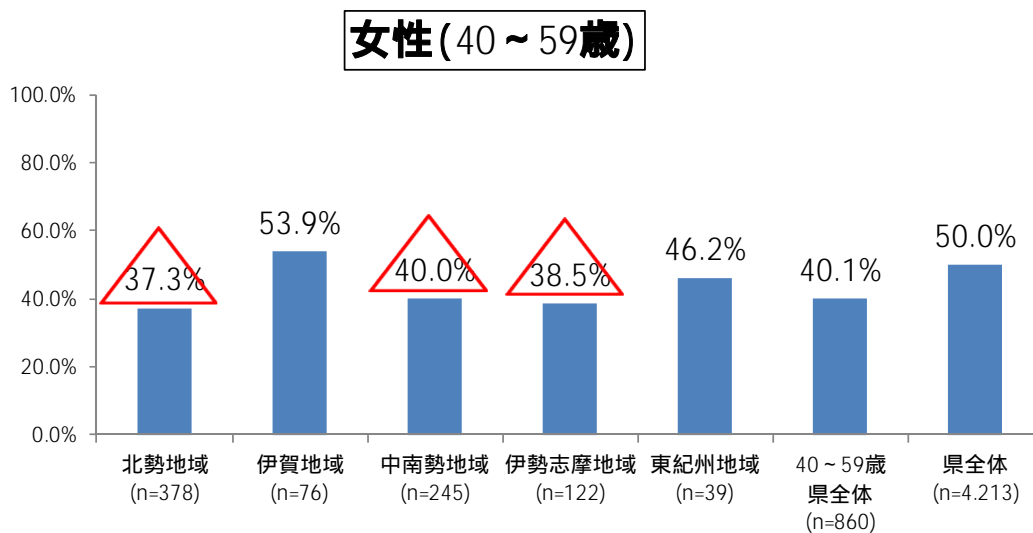
20～39歳の女性では年齢全体では、二番目に高かった東紀州地域の75.0%が最も高く、県全体に比べても高くなっています。また、県全体に比べ伊賀地域(69.4%)も高く、北勢地域(43.8%)と中南勢地域(42.3%)が低くなっています(図表5-2-7)。

40～59歳の女性では、県全体に比べ中南勢地域(40.0%)、伊勢志摩地域(38.5%)、北勢地域(37.3%)がそれぞれ低くなっています(図表5-2-8)。

図表 5-2-7 親の世帯から離れた直後の居住地「県外」(地域別・女性・20～39歳)



図表 5-2-8 親の世帯から離れた直後の居住地「県外」(地域別・女性・40～59歳)



3 親の世帯から離れた理由（全体、地域別、性別の状況）

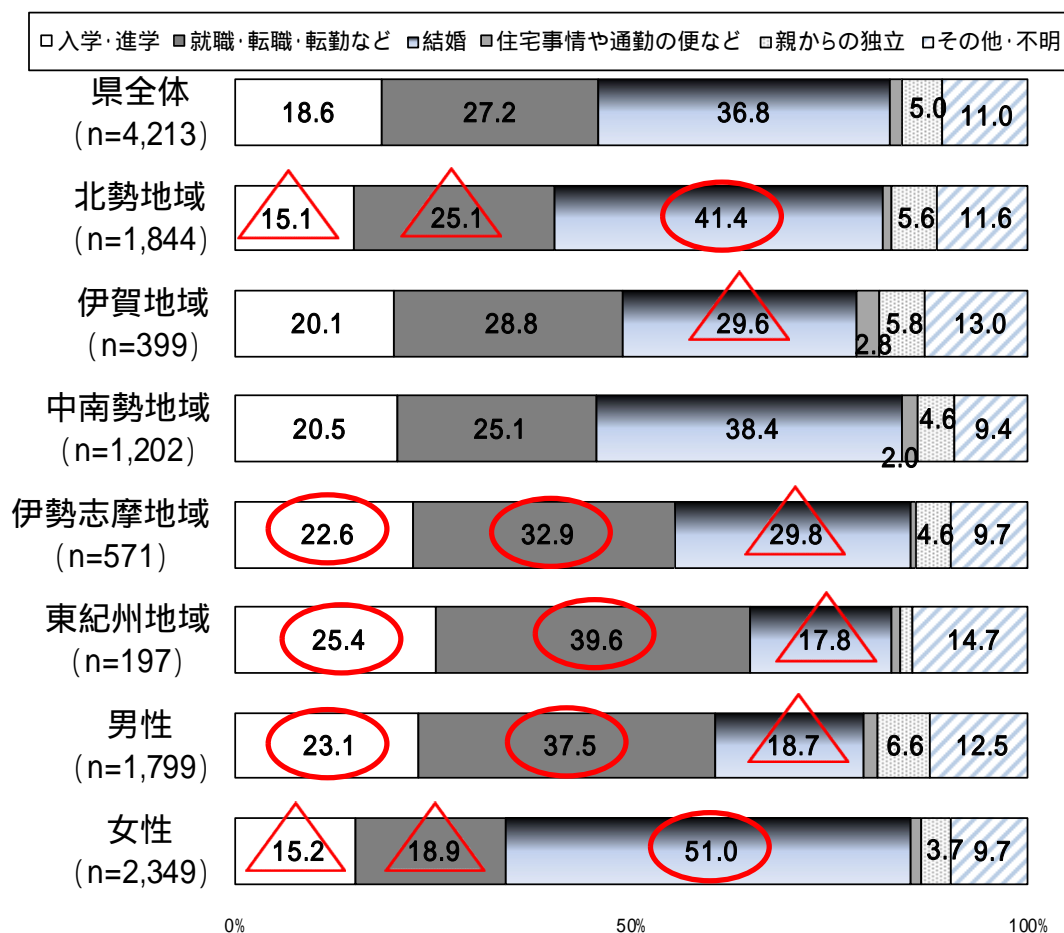
「親の世帯から離れて暮らしたことがある」と回答した方に、親の世帯から初めて離れた理由を質問したところ、県全体では「結婚」の割合が36.8%と最も高く、次いで「就職・転職・転勤など」(27.2%)、「入学・進学」(18.6%)の順に高くなっています。

地域別に見ると、「入学・進学」は県全体に比べ、東紀州地域(25.4%)と伊勢志摩地域(22.6%)がそれぞれ高く、北勢地域(15.1%)が低くなっています。「就職・転職・転勤など」についても県全体に比べ、東紀州地域(39.6%)と伊勢志摩地域(32.9%)がそれぞれ高く、北勢地域(25.1%)が低くなっています。一方、「結婚」は県全体に比べ、北勢地域(41.4%)が高く、伊勢志摩地域(29.8%)、伊賀地域(29.6%)、東紀州地域(17.8%)がそれぞれ低くなっています。

男女別に見ると、男性は県全体に比べ、「入学・進学」と「就職・転職・転勤など」がそれぞれ高く、女性は「結婚」が高くなっています(図表 5-2-9)。

自由記述では、「県内には大学が少なく、進学は県外に出してしまう。自宅から通学でき、学費を安くしてほしい」、「若い人たちが県内にとどまれるような、企業の誘致に力を入れてほしい」などの意見がありました。

図表 5-2-9 親の世帯から離れた理由

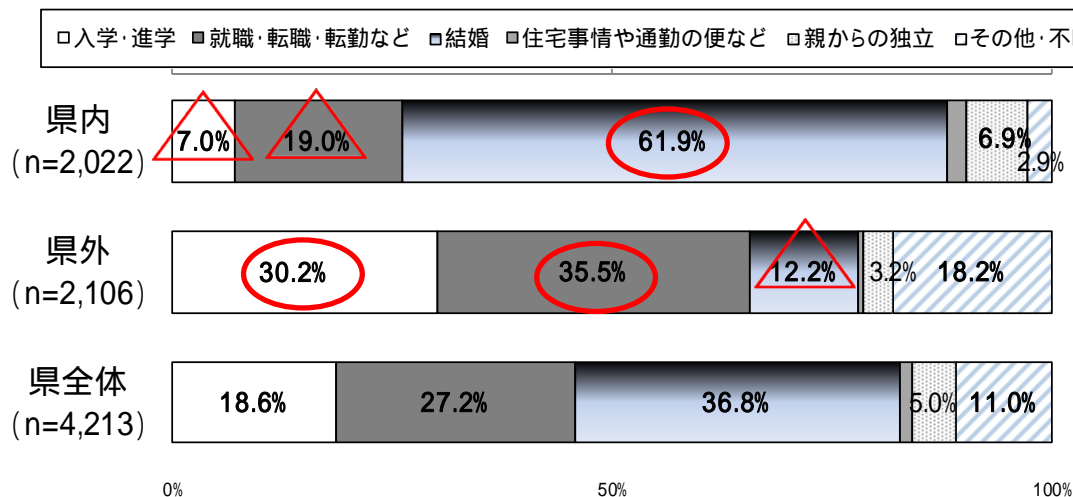


4 親の世帯から離れた理由

(1) 離れた直後の居住地別の状況

親の世帯から初めて離れた直後の居住地別の理由を見ると、「県内」と回答した層では「結婚」(61.9%)が県全体と比べ高く、「県外」と回答した層では「就職・転職・転勤など」(35.5%)と「入学・進学」(30.2%)が県全体と比べそれぞれ高く、二つの理由で65%を超えています(図表 5-2-10)。

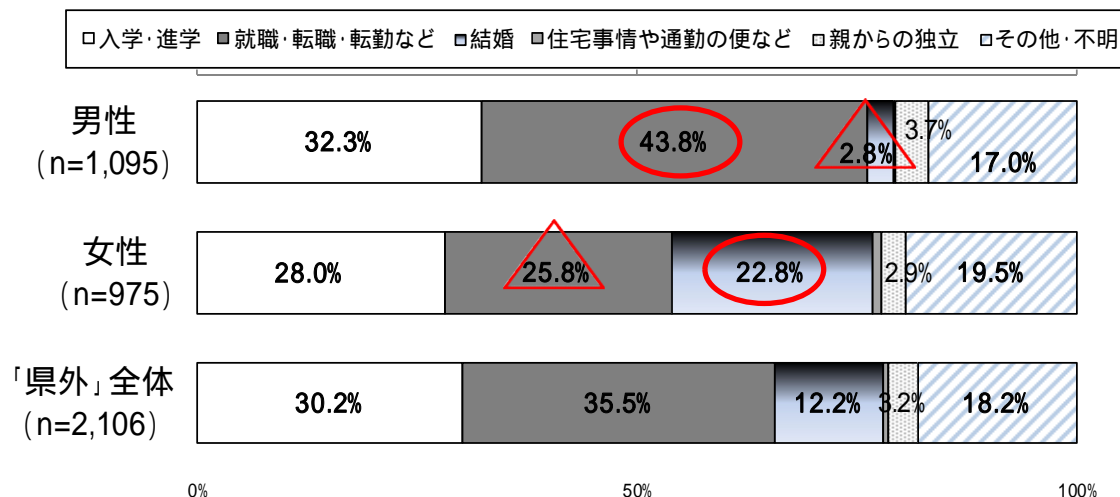
図表 5-2-10 親の世帯から離れた理由(直後の居住地別)



(2) 直後の居住地が「県外」の属性別の特徴

「県外」と回答した層の男女別の理由を見ると、男性では「就職・転職・転勤など」(43.8%)が県全体と比べ高く、女性では「結婚」(22.8%)が県全体と比べ高くなっています(図表 5-2-11)。

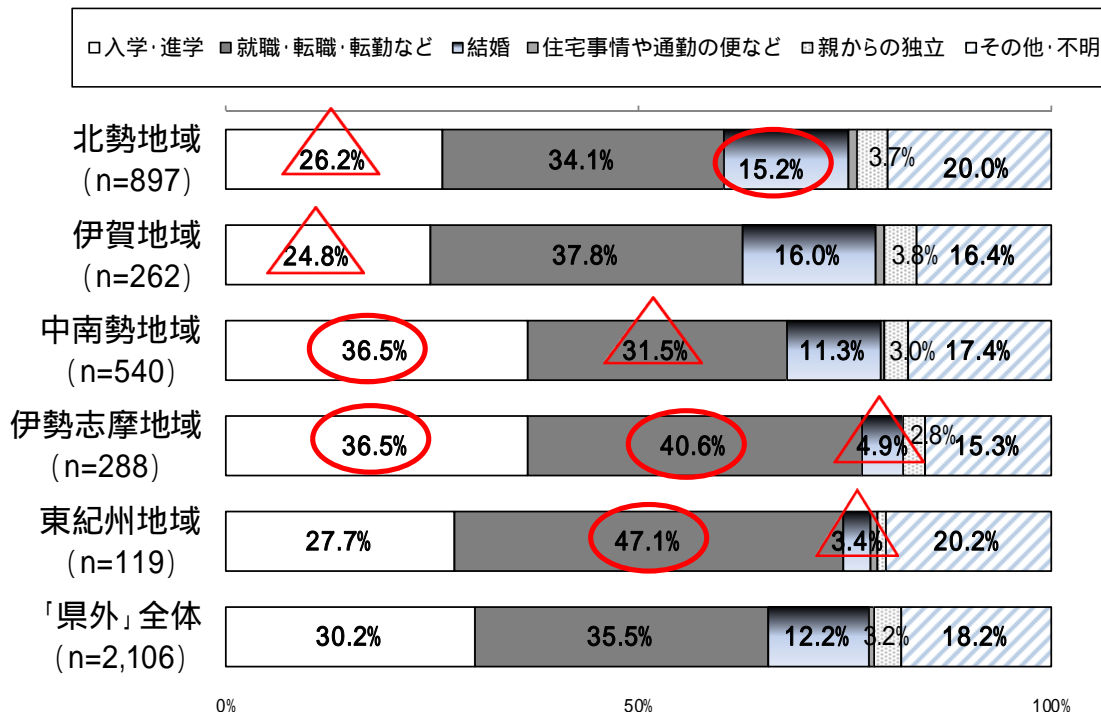
図表 5-2-11 親の世帯から離れた理由(直後の居住地「県外」・男女別)



「県外」と回答した層の地域別の理由を見ると、「入学・進学」は県全体に比べ、中南勢地域（36.5%）と伊勢志摩地域（36.5%）がそれぞれ高く、「就職・転職・転勤など」は県全体に比べ、東紀州地域（47.1%）と伊勢志摩地域（40.6%）がそれぞれ高くなっています。

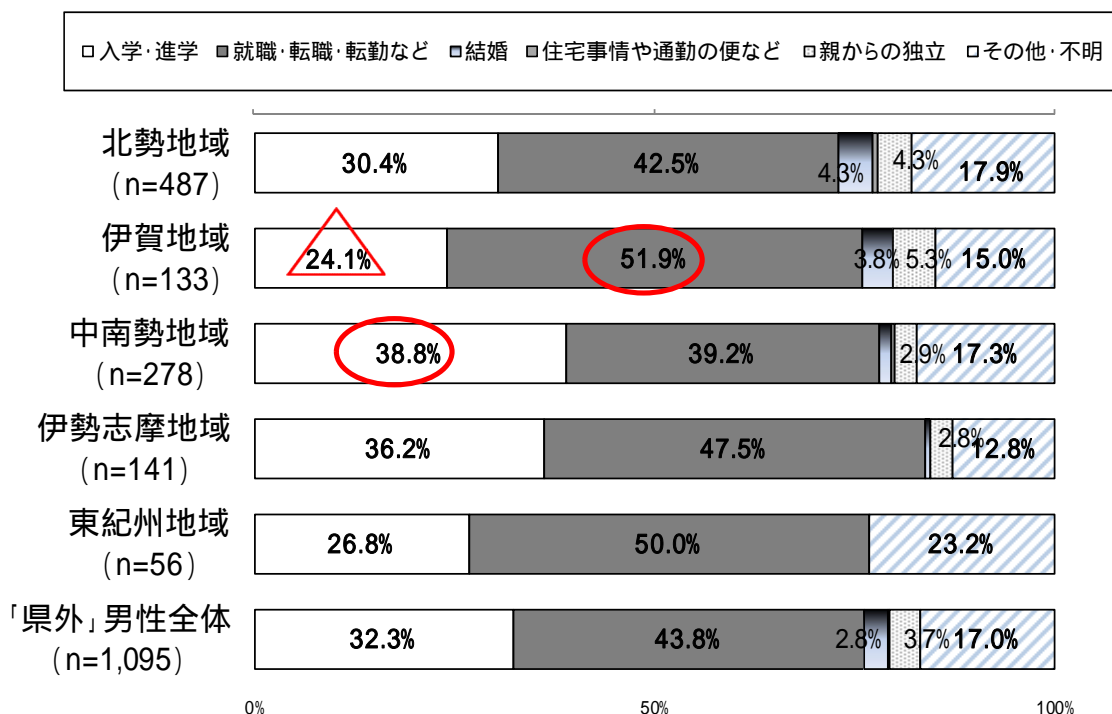
「結婚」は県全体に比べ、北勢地域（15.2%）が高くなっています（図表 5-2-12）。

図表 5-2-12 親の世帯から離れた理由(直後の居住地「県外」・地域別)



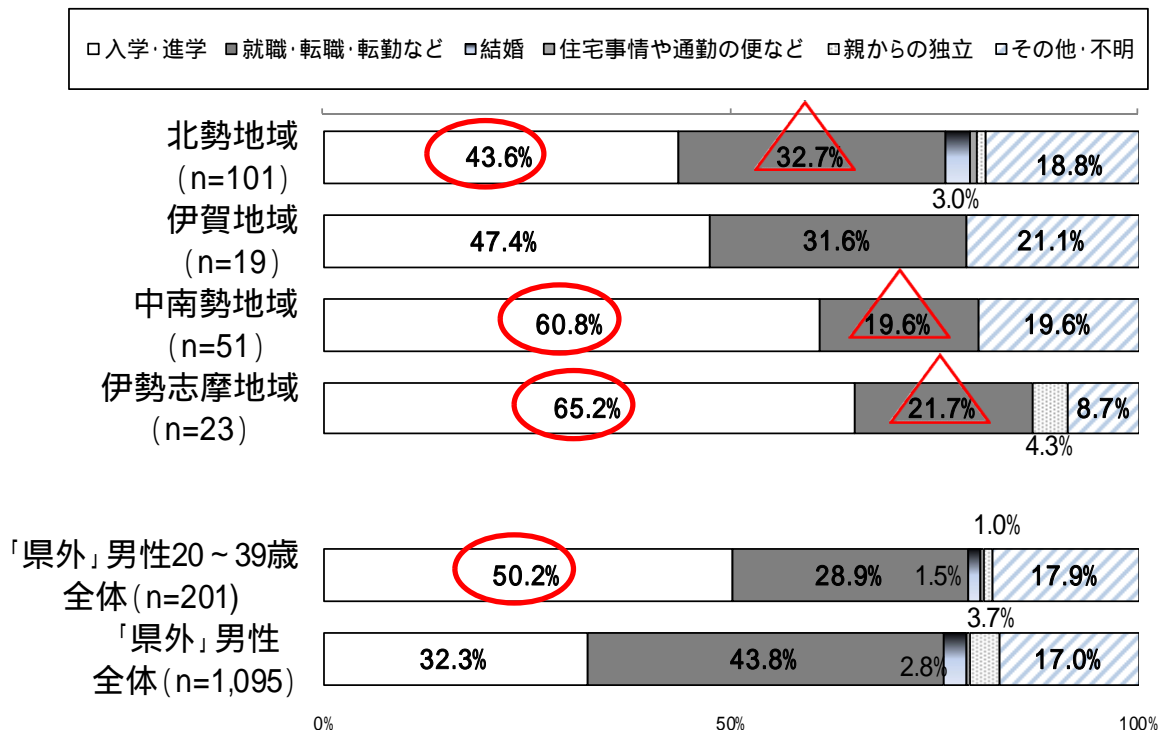
「県外」と回答した層の地域別・男性の理由を見ると、「入学・進学」は「県外」と回答した男性全体に比べ、中南勢地域（38.8%）が高く、「就職・転職・転勤など」は伊賀地域（51.9%）が高くなっています（図表 5-2-13）。

図表 5-2-13 親の世帯から離れた理由(直後の居住地「県外」・地域別・男性)



「県外」と回答した層の地域別・性別の分析に年齢別を加えて状況を見ると、20～39歳の男性において、「入学・進学」は「県外」と回答した男性全体に比べ、伊勢志摩地域（65.2%）、中南勢地域（60.8%）、北勢地域（43.6%）がそれぞれ高くなっています（図表 5-2-14）。

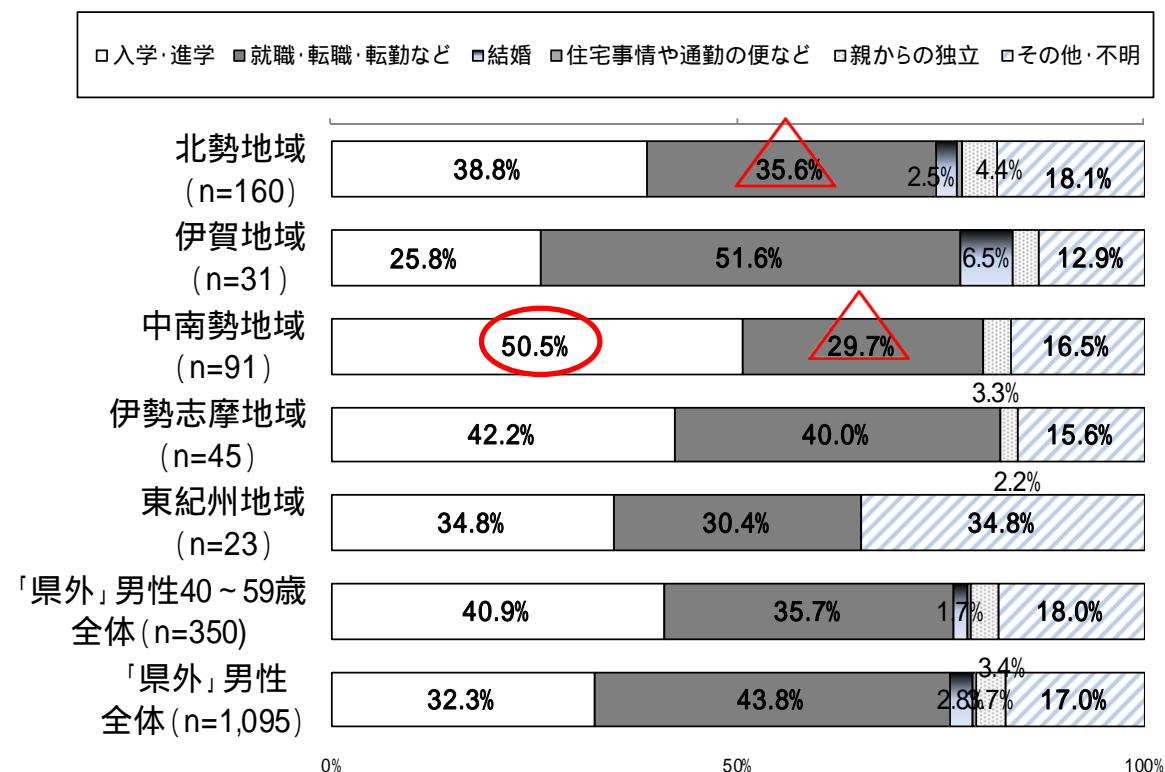
図表 5-2-14 親の世帯から離れた理由(直後の居住地「県外」・地域別・男性・20～39歳)



(備考) 東紀州地域 (n=7) については、サンプル数が少ないため、省略している。

40～59歳の男性において「入学・進学」は「県外」と回答した男性全体に比べ、中南勢地域（50.5%）が高くなっています（図表 5-2-15）。

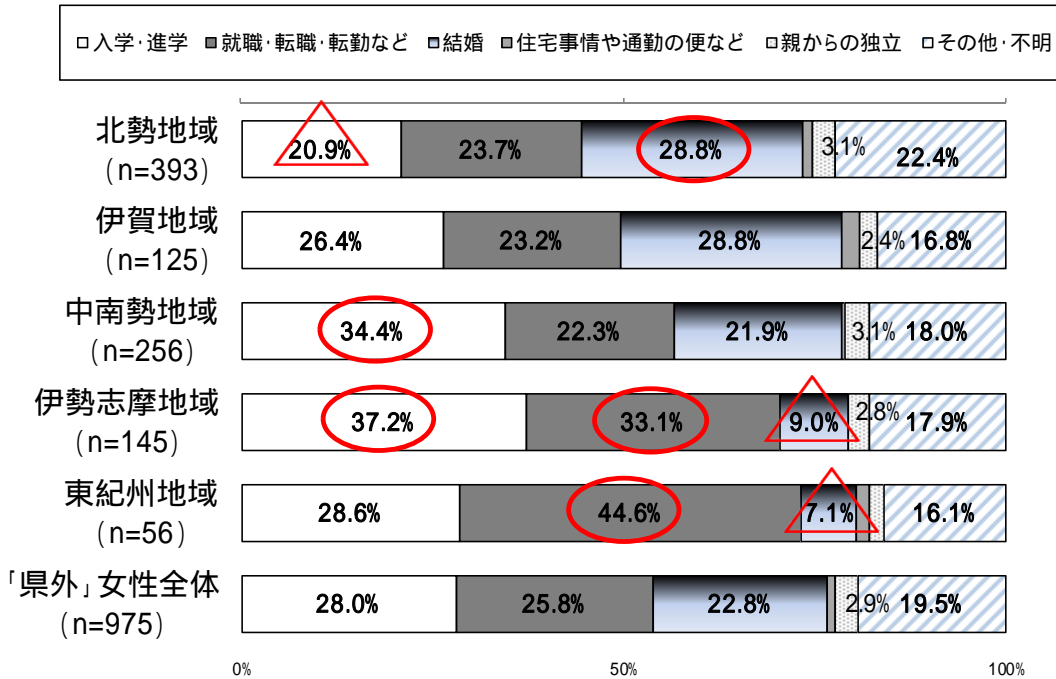
図表 5-2-15 親の世帯から離れた理由(直後の居住地「県外」・地域別・男性・40～59歳)



「県外」と回答した層の地域別・女性の理由を見ると、「入学・進学」は「県外」と回答した女性全体に比べ、伊勢志摩地域（37.2%）と中南勢地域（34.4%）が高く、「就職・転職・転勤など」は東紀州地域（44.6%）と伊勢志摩地域（33.1%）がそれぞれ高くなっています。

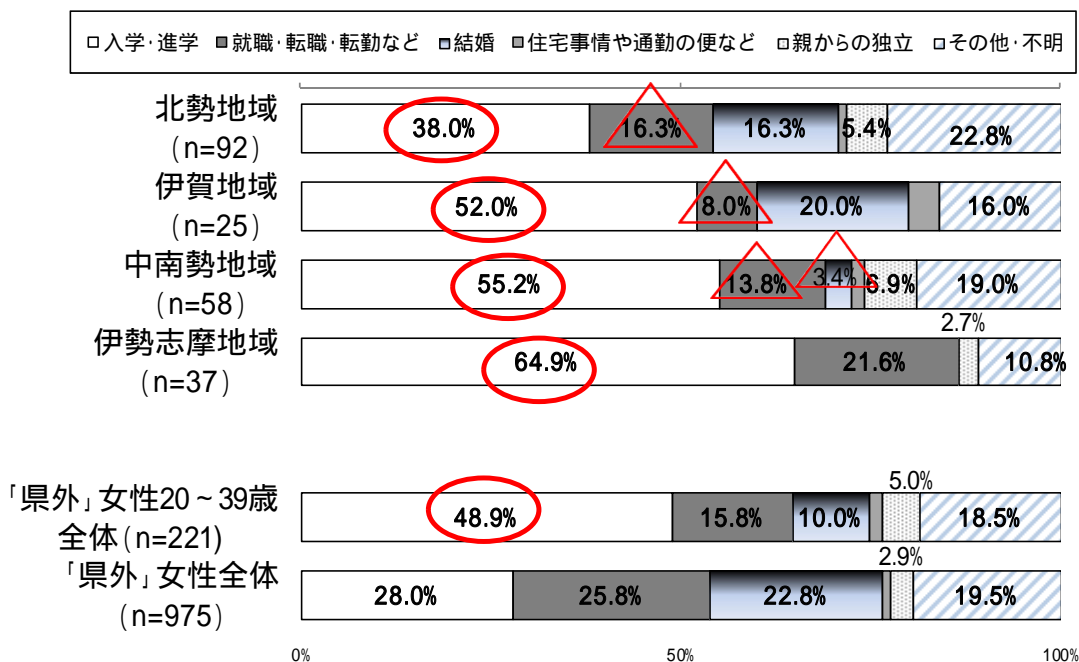
「結婚」は「県外」と回答した女性全体に比べ、北勢地域（28.8%）が高くなっています（図表 5-2-16）

図表 5-2-16 親の世帯から離れた理由(直後の居住地「県外」・地域別・女性)



「県外」と回答した層の地域別・20～39歳の女性において、「入学・進学」は「県外」と回答した女性全体に比べ、東紀州地域を除いていずれの地域も高く、伊勢志摩地域（64.9%）、中南勢地域（55.2%）の順に高くなっています（図表 5-2-17）

図表 5-2-17 親の世帯から離れた理由(直後の居住地「県外」・地域別・女性・20～39歳)

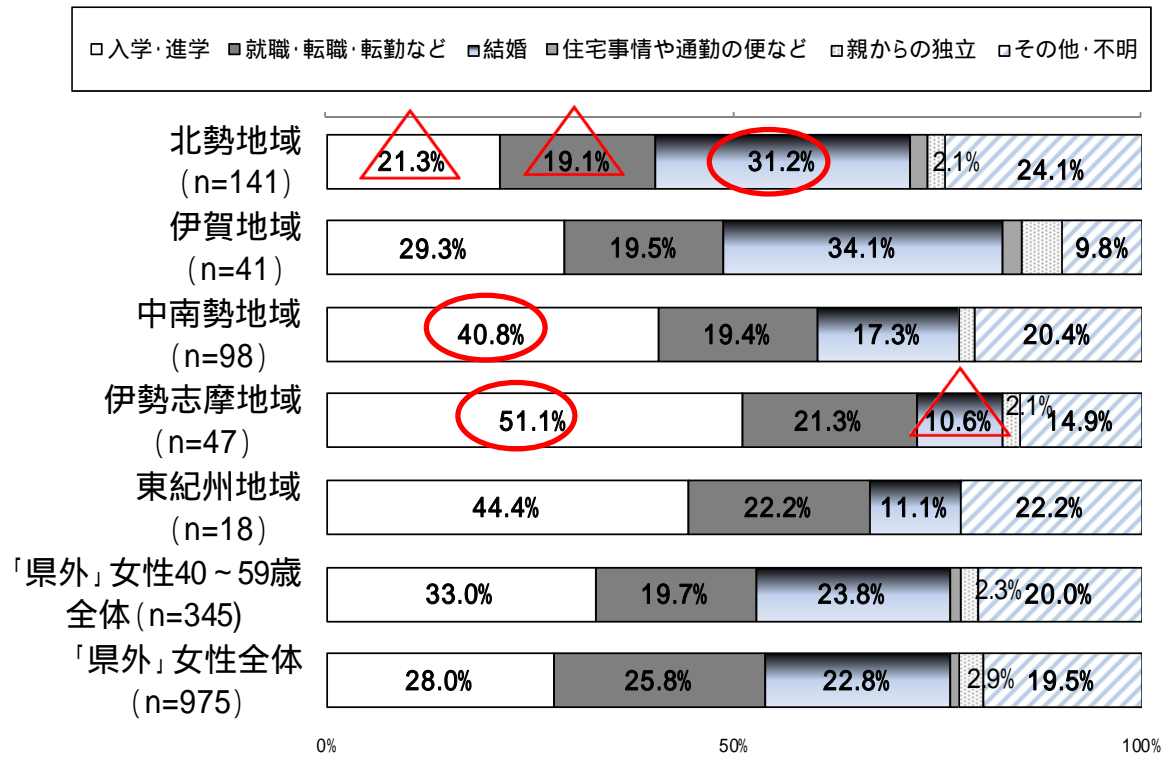


(備考) 東紀州地域 (n=9) については、サンプル数が少ないため、省略している。

40～59歳の女性において「入学・進学」は「県外」と回答した女性全体に比べ、伊勢志摩地域（51.1%）と中南勢地域（40.8%）がそれぞれ高くなっています。

「結婚」は「県外」と回答した女性全体に比べ、北勢地域（31.2%）が高くなっています（図表5-2-18）。

図表 5-2-18 親の世帯から離れた理由(直後の居住地「県外」・地域別・女性・40～59歳)

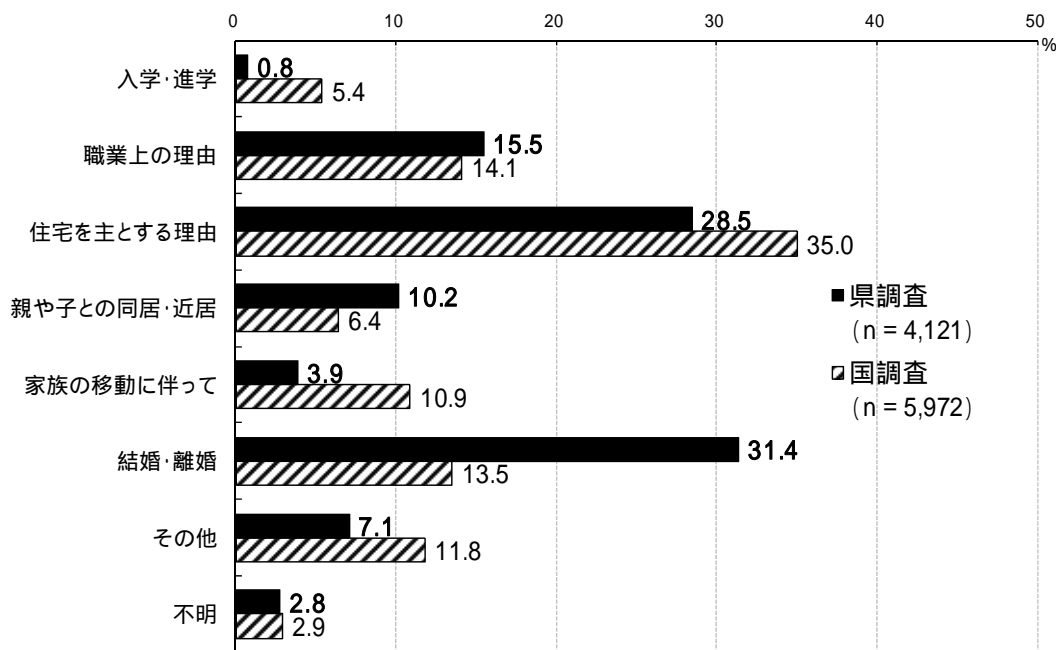


5 現在の住まいへの引越理由（全体の状況）

引越の経験がある方に、現在の住まいへ引越した理由を質問したところ、「結婚・離婚」の割合が31.4%と最も高く、次いで「住宅を主とする理由」(28.5%)、「職業上の理由」(15.5%)となっています。

なお、調査方法等が同一ではないことから単純な比較はできませんが、類似する全国調査では「住宅を主とする理由」(35.0%)が最も高く、次いで「職業上の理由」(14.1%)、「結婚・離婚」(13.5%)となっています(図表 5-2-19)。

図表 5-2-19 現在の住まいへの引越理由



引越の理由は、全国調査に準じて19の選択肢を以下の7つに分類

入学・進学：「入学・進学」 職業上の理由：「就職」、「転職」、「転勤」、「家業継承」、「定年退職」

住宅を主とする理由：「住宅事情」、「生活環境上の理由」、「通勤通学の便」

親や子との同居・近居：「親と同居」、「親と近居」、「子と同居」、「子と近居」

家族の移動に伴って：「家族の移動に伴って」 結婚・離婚：「結婚」、「離婚」

その他・・・「子育て環境上の理由」、「健康上の理由」、「その他」

図表 5-2-20 参照した国の調査

第7回人口移動調査(国立社会保障・人口問題研究所、平成23年7月実施、過去5年間に移動した人が対象、有効回収数：5,972)

(質問)引越の理由は、もっとも重要だと思う理由を1つだけ選んで、あてはまるものに○をつけてください。

(回答) 1 入学・進学 2 就職 3 転職 4 転勤 5 家業継承 6 定年退職 7 住宅事情
 8 生活環境上の理由 9 通勤通学の便 10 親と同居 11 親や近居 12 子と同居
 13 子と近居 14 家族の移動に伴って 15 結婚 16 離婚 17 子育て環境上の理由
 18 健康上の理由 19 その他

6 現在の住まいへの引越理由と引越前の居住地との関係

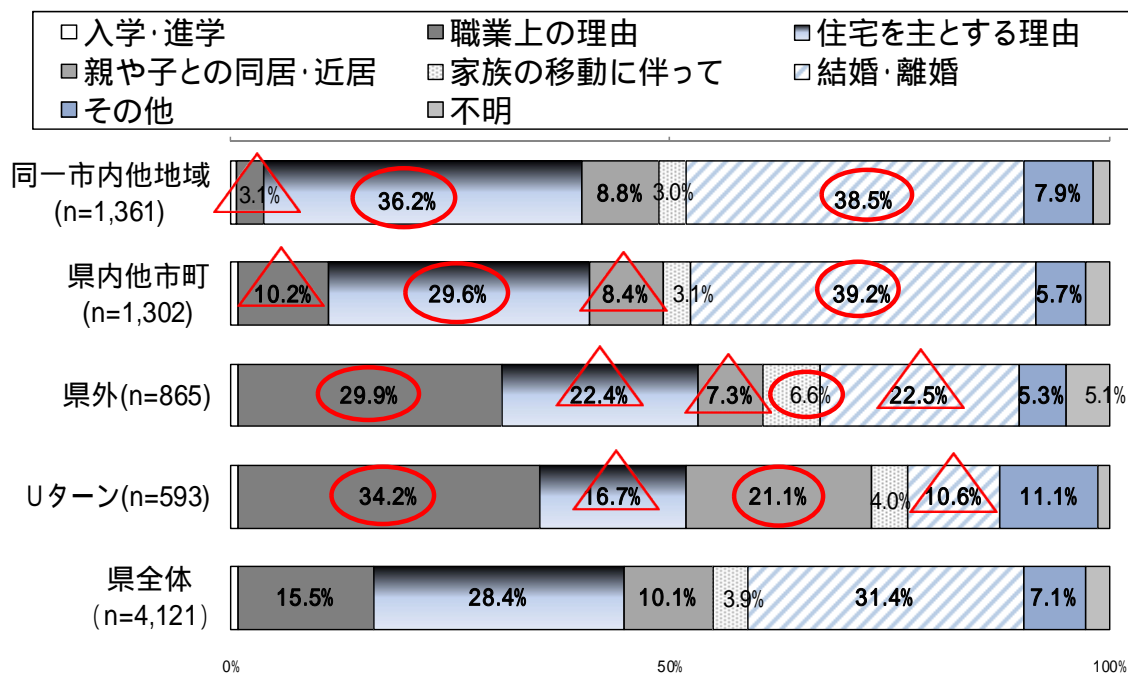
(1) 全体の状況

現在の住まいへの引越理由と引越前の居住地との関係を見ると、「職業上の理由」は県全体と比べ、「三重県にUターン」(34.2%)と「県外から初めて三重県に引っ越し」(29.9%)がそれぞれ高くなっています。

一方、「住宅を主とする理由」は県全体と比べ、「同一市内他地域から」(36.2%)と「県内他市町から」(29.6%)がそれぞれ高くなっています。「結婚・離婚」も県全体と比べ、「同一市内他地域から」(38.5%)と「県内他市町から」(39.2%)が高くなっています。

「親や子との同居」は県全体と比べ、「三重県にUターン」(21.1%)が高く、「家族の移動に伴って」は「県外から初めて三重県に引っ越し」(6.6%)が高くなっています(図表 5-2-21)。

図表 5-2-21 引越前の居住地別の現在の住まいへの引越理由(全体の状況)



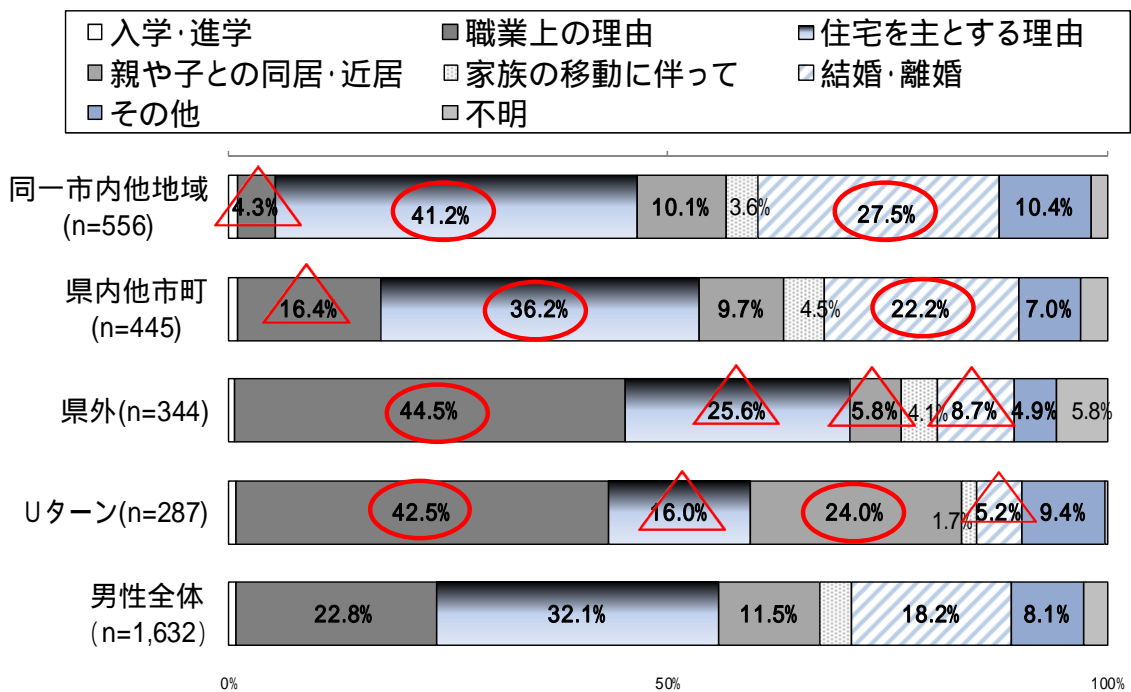
(2)属性別の特徴

現在の住まいへの引越理由と引越前の居住地との関係を男性で見ると、「職業上の理由」は男性県全体と比べ、「県外から初めて三重県に引っ越し」(44.5%)と「三重県にUターン」(42.5%)がそれぞれ高くなっています。

「住宅を主とする理由」は男性県全体と比べ、「同一市内他地域から」(41.2%)と「県内他市町から」(36.2%)がそれぞれ高くなっています。「結婚・離婚」も男性県全体と比べ、「同一市内他地域から」(27.5%)と「県内他市町から」(22.2%)が高くなっています。

「親や子との同居」は男性県全体と比べ、「三重県にUターン」(24.0%)が高くなっています(図表 5-2-22)。

図表 5-2-22 引越前の居住地別の現在の住まいへの引越理由(男性)

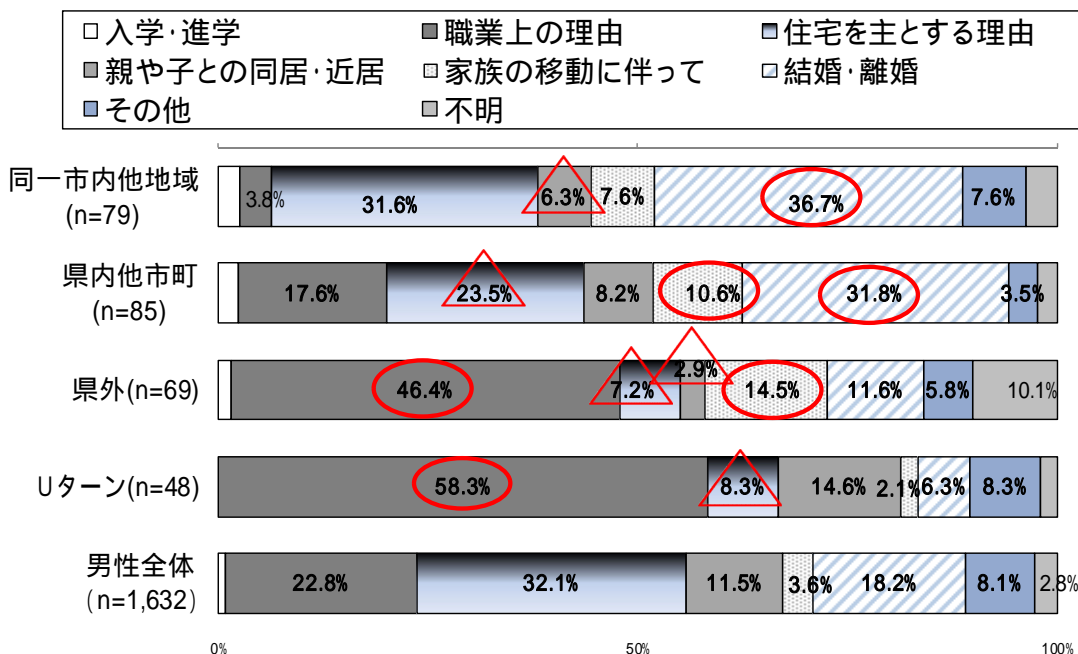


現在の住まいへの引越理由の地域別・性別の分析に年齢別を加えて状況を見ると、20~39歳の男性では、「職業上の理由」は男性県全体と比べ、「三重県にUターン」(58.3%)と「県外から初めて三重県に引っ越し」(46.4%)がそれぞれ高くなっています。

「家族の移動に伴って」は男性県全体と比べ、「県外から初めて三重県に引っ越し」(14.5%)と「県内他市町から」(10.6%)がそれぞれ高くなっています。

「結婚・離婚」は男性県全体と比べ、「同一市内他地域から」(36.7%)と「県内他市町から」(31.8%)が高くなっています(図表 5-2-23)。

図表 5-2-23 引越前の居住地別の現在の住まいへの引越理由(地域別・男性・20～39歳)



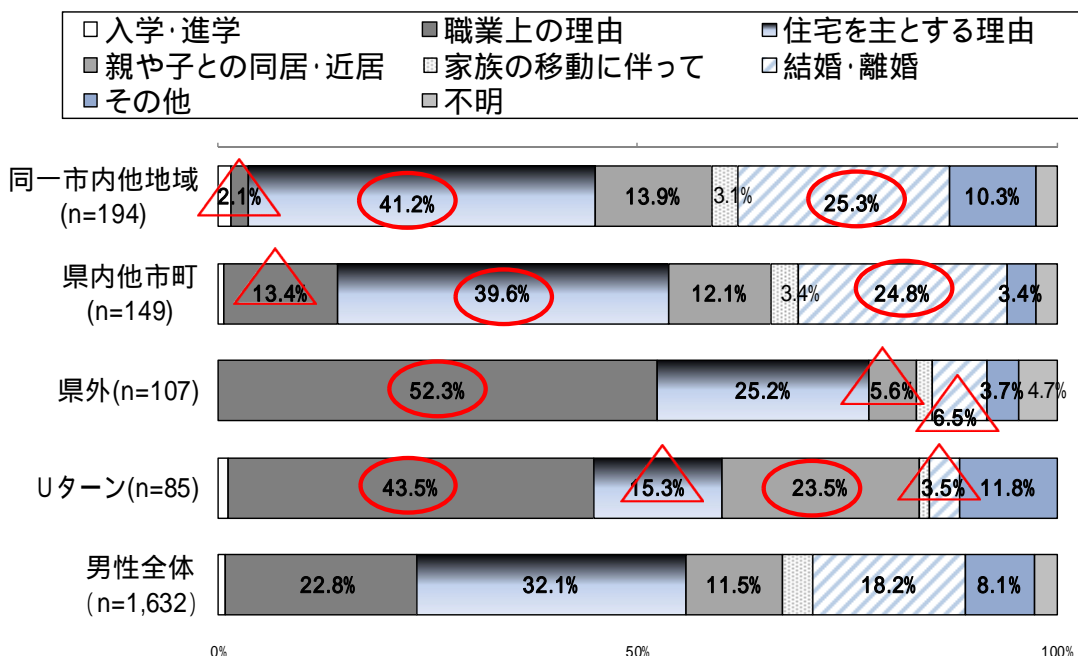
40～59歳の男性でも、「職業上の理由」は男性県全体と比べ、「県外から初めて三重県に引っ越し」(52.3%)と「三重県にUターン」(43.5%)がそれぞれ高くなっています。

「住宅を主とする理由」は男性県全体と比べ、「同一市内他地域から」(41.2%)と「県内他市町から」(39.6%)がそれぞれ高くなっています。

「親や子との同居・近居」は男性県全体と比べ、「三重県にUターン」(23.5%)が高くなっています。

「結婚・離婚」は男性県全体と比べ、「同一市内他地域から」(25.3%)と「県内他市町から」(24.8%)がそれぞれ高くなっています(図表 5-2-24)。

図表 5-2-24 引越前の居住地別の現在の住まいへの引越理由(地域別・男性・40～59歳)



現在の住まいへの引越理由と引越前の居住地との関係を女性で見ても、「職業上の理由」は女性県全体と比べ、「三重県にUターン」(26.5%)と「県外から初めて三重県に引っ越し」(19.6%)がそれぞれ高くなっています。

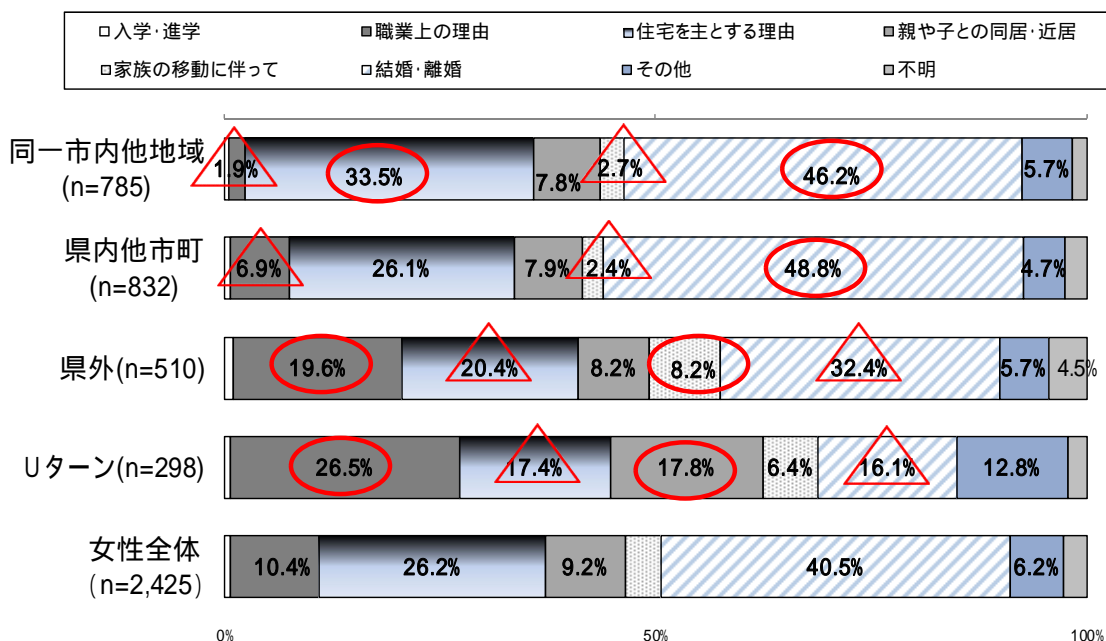
「住宅を主とする理由」は女性県全体と比べ、「同一市内他地域から」(33.5%)が高くなっています。

「親や子との同居」は女性県全体と比べ、「三重県にUターン」(17.8%)が高くなっています。

「家族の移動に伴って」は女性県全体と比べ、「県外から初めて三重県に引っ越し」(8.2%)が高くなっています。

「結婚・離婚」は女性県全体と比べ、「県内他市町から」(48.8%)と「同一市内他地域から」(46.2%)がそれぞれ高くなっています(図表 5-2-25)。

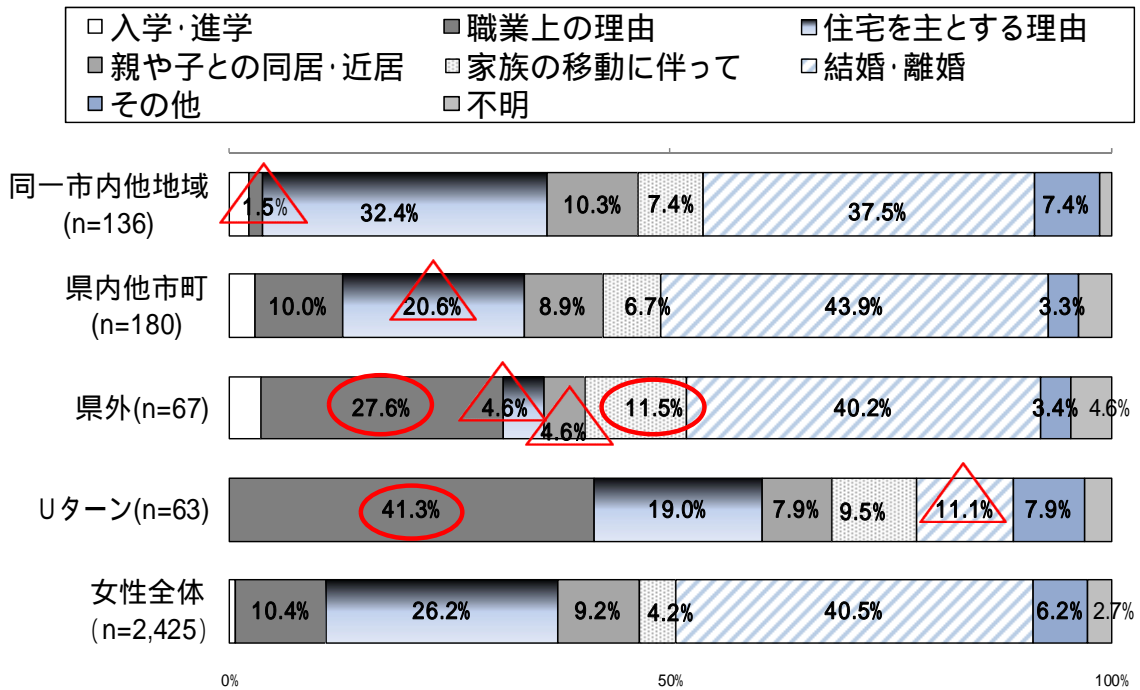
図表 5-2-25 引越前の居住地別の現在の住まいへの引越理由(女性)



20~39歳の女性では、「職業上の理由」は女性全体と比べ、「三重県にUターン」(41.3%)と「県外から初めて三重県に引っ越し」(27.6%)がそれぞれ高くなっています。

「家族の移動に伴って」は女性県全体と比べ、「県外から初めて三重県に引っ越し」(11.5%)が高くなっています。(図表 5-2-26)

図表 5-2-26 引越前の居住地別の現在の住まいへの引越理由(地域別・女性・20～39歳)



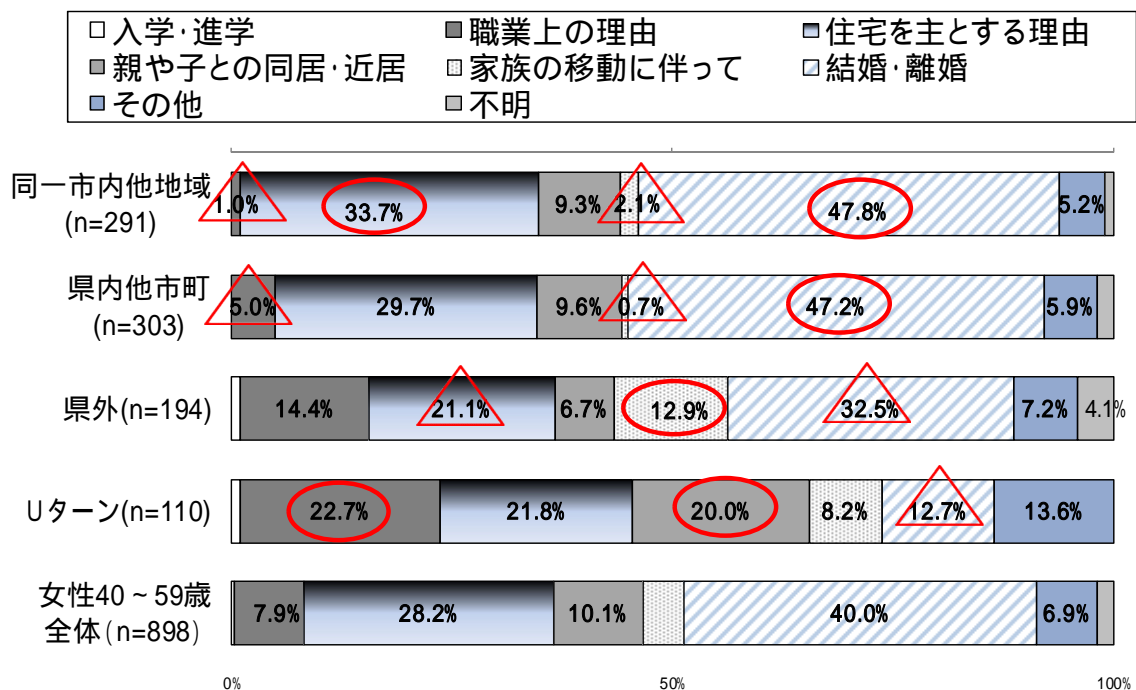
40～59歳の女性では、「職業上の理由」は女性県全体と比べ、「三重県にUターン」(22.7%)が高くなっています。「親や子との同居・近居」も女性県全体と比べ、「三重県にUターン」(20.0%)が高くなっています。

「住宅を主とする理由」は女性県全体と比べ、「同一市内他地域から」(33.7%)が高くなっています。

「家族の移動に伴って」は女性県全体と比べ、「県外から初めて三重県に引っ越し」(12.9%)が高くなっています。

「結婚・離婚」は女性県全体と比べ、「同一市内他地域から」(47.8%)と「県内他市町から」(47.2%)がそれぞれ高くなっています(図表 5-2-27)。

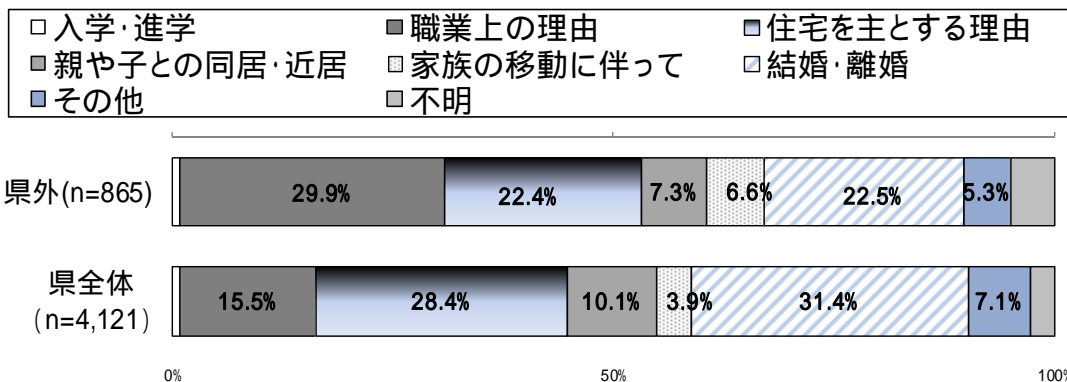
図表 5-2-27 引越前の居住地別の現在の住まいへの引越理由(地域別・女性・40～59歳)



(3) 引越前の居住地「県外」の特徴

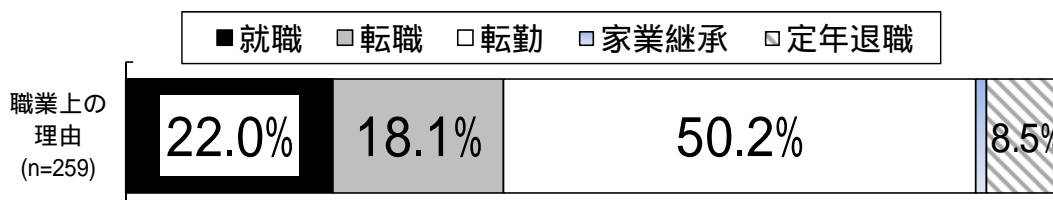
引越前の居住地が「県外から初めて三重県に引っ越し」と回答した層の現在の住まいへの引越理由については、「職業上の理由」(29.9%)と「家族の移動に伴って」(6.6%)が県全体と比べ高く、「結婚・離婚」(22.5%)と「住宅を主とする理由」(22.4%)、「親や子との同居・近居」(7.3%)が低くなっています(図表 5-2-28)。

図表 5-2-28 引越前の居住地が「県外」の現在の住まいへの引越理由



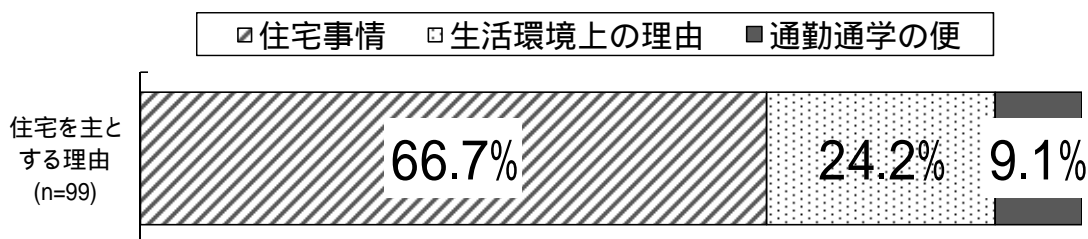
現在の住まいへの引越理由で最も回答割合の高かった「職業上の理由」の詳細を見ると、「転勤」が50.2%で半数を超え、「就職」が22.0%、「転職」が(18.1%)などとなっています(図表 5-2-29)。

図表 5-2-29 「県外」回答者の「職業上の理由」の詳細



現在の住まいへの引越理由で「職業上の理由」と「結婚・離婚」に次いで回答割合の高かった「住宅を主とする理由」の詳細を見ると、「住宅事情」が66.7%で概ね3分の2を占め、「生活環境上の理由」が24.2%、「通勤通学の便」が9.1%となっています(図表 5-2-30)。

図表 5-2-30 「県外」回答者の「住宅を主とする理由」の詳細

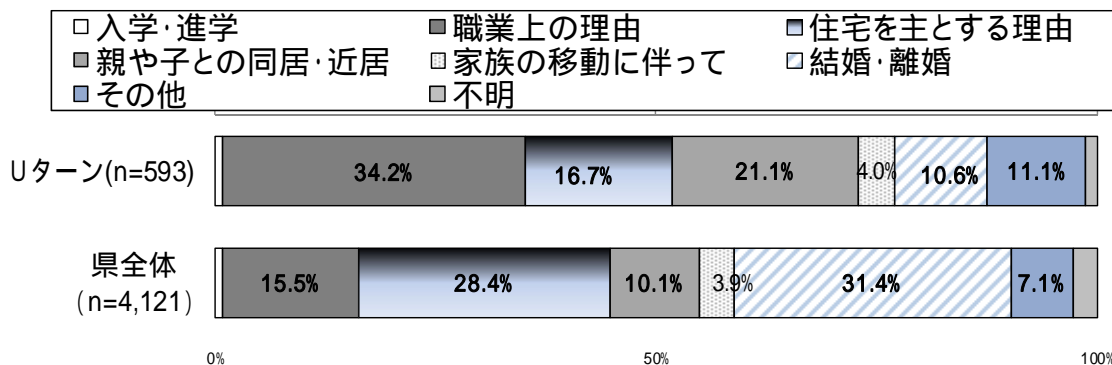


(4)引越前の居住地「Uターン」の特徴

引越前の居住地が「三重県にUターン」と回答した層の現在の住まいへの引越理由については、「県外」と同様、「職業上の理由」(34.2%)が県全体と比べ高くなっていますが、「県外」とは反対に「親や子との同居・近居」(21.1%)も県全体と比べ高くなっています。

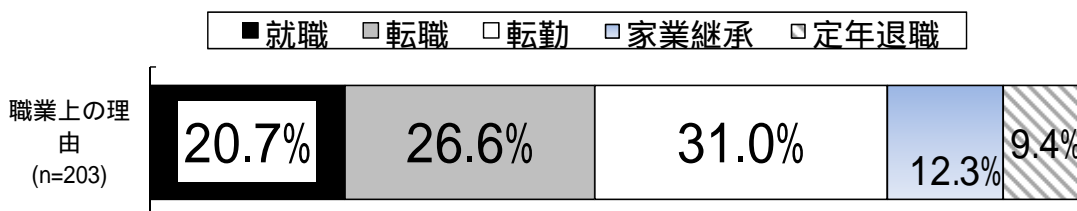
また、「住宅を主とする理由」(16.7%)と「結婚・離婚」(22.5%)が県全体と比べ低くなっています(図表 5-2-31)。

図表 5-2-31 引越前の居住地が「Uターン」の現在の住まいへの引越理由



現在の住まいへの引越理由で最も回答割合の高かった「職業上の理由」の詳細を見ると、「転職」が31.0%、「就職」が26.6%、「就職」が20.7%などとなっています(図表 5-2-32)。

図表 5-2-32 「Uターン」回答者の「職業上の理由」の詳細



現在の住まいへの引越理由で「職業上の理由」に次いで回答割合の高かった「親や子との同居・近居」の詳細を見ると、「親と同居」が74.4%で概ね4分の3を占め、「親との近居」が24.0%などとなっています(図表 5-2-33)。

図表 5-2-33 「Uターン」回答者の「親や子との同居・近居」の詳細

